A decorative border with floral and leaf motifs in the corners, surrounding the central text.

令和3年度

事業報告書

令和3年4月1日～令和4年3月31日

社会福祉法人 慈童会

令和3年度 事業報告書

目次

法人本部	1
管理部	
地域貢献活動	
研修会	
安全衛生管理	
委員会活動	
第1種社会福祉事業	28
特別養護老人ホーム	
医務室	
給食	
第2種社会福祉事業	35
短期老人入所事業	35
くすのき園 短期入所生活介護事業所	
くすのき園介護予防短期入所生活介護事業所	
老人デイサービス事業	37
くすのき園 通所介護事業所	
くすのき園 介護予防日常生活支援総合事業通所介護事業所	
居宅介護事業	39
くすのき園 訪問介護事業所	
くすのき園 介護予防日常生活支援総合事業訪問介護事業所	
居宅介護事業所 くすのき園	
グループホーム	42
保育所	43
くすのき保育園	
公益事業	45
くすのき園 居宅介護支援事業所	
鈴鹿第4地域支援センター	
鈴鹿第4介護予防支援事業所	

社会福祉法人 慈童会

1.法人全般

本年度の目標は「慈童会が地域包括ケアの中心的役割を担い、公益的・公共的な事業を展開し、もって地域社会から信頼が得られる事業運営を行う」として取り組んだ。令和3年4月から開始した鈴鹿第4地域包括支援センター「わかたけ」では、医療・福祉・介護の専門職が、行政とともに支える側として相談支援や、地域住民同士の関係性への支援により地域におけるセーフティネットとしての役割を担い、事業を展開してきた。制度の狭間にある複合的・複雑な問題を抱えた人々の発見・支援や地域づくり等の実践を通じて公益的事業を展開しているところである。

少子高齢化が進む中、令和2年1月に検出された新型コロナウイルス感染症は、人と人との繋がりを脆くし、社会の分断に拍車をかけ、地域における福祉課題も大きく変化し続けている。デジタル化が加速し、オンライン会議やweb研修などのテレワークが定着した。リモート体制を整備するとともに、感染予防に最新の注意を払い、また緊急時や災害時の情報共有を図るため、持続可能な事業運営に取り組み、組織マネジメントの基盤強化を行った。そして、事業の安定と発展のための羅針盤としての中期経営計画（令和3年から令和5年）を策定し実践している。

2. 重点的取り組み

(1) 安定的財政基盤の確立

昨今の人材不足は、社会福祉施設・事業所にとって厳しい状況にある。新型コロナウイルス感染症の蔓延による感染所防止対策の負担増や、利用者・職員が陽性者や濃厚接触者となることで一時的な事業自粛を強いられ、また感染を恐れることでの利用控えの心配もあった。そのような中で「生産性の向上」は、安定的財政基盤の確立のために必要不可欠な課題であった。

ICTや介護ロボット導入に向けて、設備環境を整え、デモ機器を取り入れるなど人的、時間的効率化を図った。

(2) 人権尊重の重視、虐待の排除、個人情報保護、苦情相談体制の徹底

近年、地域共生社会と言われるように、人と人との繋がりが重要視されている。繋がりが合い、支え合うことが互いの人権を尊重し、自己実現を可能にする。身体拘束適正化委員会、リスクマネジメント委員会、サービス向上委員会、研修委員会等の委員会を中心に、自己決定を阻害するものについて検討、また利用者満足度調査を実施しサービス向上について検証した。

(3) 地域への発信力の強化と公益的取り組み

コロナ感染症によって、これまで地域活動のように人と人を対面で繋げることが困難な状況が続いている。心身状況の弱体化によって参集型の交流の場に来られなくなった高齢者や、もとの障害によりその場に参加が困難な人など、コロナ禍であらためて気づかされた。中止となった介護予防教室の代わりに、一方通行ではあったが体操や健康についてのニュースレターを送付したり、一部の地域において感染対策を行った上で出前講座を実施した。

(4) 人材育成と職員満足

本年度から導入された科学的介護情報システム（LIFE）は、それまで目の前の高齢者ができないことを世話することが中心であったが、これからは高齢者が自分でできるようになることを助ける「自立支援」に基軸に置くものである。要介護度が下がってできるようになる達成感を

共に味わうことができるということは職員にとっての働きがいとなる。PDCA サイクルに基づく個別的なケアマネジメントを専門職が地域や関係者と共同して取り組むことが、人材育成の要にすることが重要課題である。

(* 具体的内容は、別紙各事業所報告を参照)

3. 会議

(1) 理事会

- ・ 令和 2 年度 事業報告及び決算の決議 令和 3 年 6 月 2 日
- ・ 令和 3 年度 評議員選任・解任委員会委員の選任について 令和 3 年 6 月 2 日
- ・ 令和 3 年度 中間状況報告及び補正予算の決議 令和 3 年 11 月 17 日
- ・ 令和 4 年度 事業計画及び予算の決議 令和 4 年 3 月 22 日

(2) 臨時理事会

- ・ 令和 3 年度 新理事長の選任について 令和 3 年 6 月 2 日

(3) (定時) 評議員会

- ・ 令和 2 年度 事業報告及び決算の決議 令和 3 年 6 月 24 日
- ・ 令和 3 年度 理事・監事の選任について 令和 3 年 6 月 24 日
- ・ 令和 3 年度 中間状況報告及び補正予算の決議 令和 3 年 11 月 29 日
- ・ 令和 4 年度 事業計画及び予算の決議 令和 4 年 3 月 30 日

(4) 臨時評議員会

なし

4. 監査

- (1) 定例監査 財産及び事業の執行状況及び決算監査 令和 3 年 5 月 29 日
- (2) 臨時監査 財産及び事業の執行状況 必要に応じ随時
- (3) 内部経理監査 全事業所収支状況 試算表報告 (3 日) 4 月・6 月・10 月

5. 表彰

(1) 永年勤続表彰 令和 4 年 2 月 18 日

- | | | | |
|--------|------------|--------|------------------|
| 5 年勤続 | 3 人 (老人 3) | 10 年勤続 | 6 人 (老人 3・保育 3)、 |
| 15 年勤続 | 1 人 (老人 1) | 20 年勤続 | 2 人 (老人 1・保育 1) |
| 25 年勤続 | 1 人 | 30 年勤続 | 1 人 (老人 1) |

6. 職員数

- (1) 採用数 24 名 (老人 22・保育 2)
- (2) 離職数 20 名 (老人 20・保育 2)

令和3年度 社会福祉法人 慈童会 理事会開催状況

第 1 回 理事会 令和2年度 事業報告 収支決算書の承認

日 時 令和3年 6月2日（水曜日） 午前 9時30分～

場 所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室

出席者 6名(欠員0名) 戸田監事・中村監事

議 長 北野理事 署名人 小野寺理事長・戸田監事・中村監事

議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺(保育園副園長)・加藤事務長(老人施設)・古川(在宅統括)

議 案

- (1) 決議事項
- 第 1号議案 令和2年度 事業報告(案)について
 - 第 2号議案 令和2年度 資金収支第3次補正予算(案)について
 - 第 3号議案 令和3年度 決算認定(案)について
 - 第 4号議案 社会福祉法人慈童会 中期経営計画の策定(案)について
 - 第 5号議案 社会福祉法人慈童会 評議員選任・解任委員会委員の選任(案)について
 - 第 6号議案 社会福祉法人慈童会 苦情解決第三者委員の任命(案)について
 - 第 7号議案 くすのき園訪問介護事業所 運営規程の一部変更(案)について
 - 第 8号議案 くすのき園介護予防・日常生活支援総合事業訪問介護事業所運営規程の一部変更(案)について
 - 第 9号議案 居宅介護事業所くすのき園 運営規程の一部変更(案)について
 - 第10号議案 令和3年度 第1回 定時評議員会の開催(案)について
 - 第11号議案 令和3年度 第2回 理事会の招集(案)について
- (2) 報告事項
- 第 1号報告 社会福祉法人慈童会 定款の一部変更について
 - 第 2号報告 在宅介護支援センターくすのき園の事業廃止に係る基本財産処分承認申請について
 - 第 3号報告 令和3年度鈴鹿亀山地区広域連合第4地域包括支援センター業務委託契約の締結について
 - 第 4号報告 社会福祉法人慈童会 内部経理監査人の任命について
 - 第 5号報告 特養ホーム給油機更新工事契約の締結について

その他

第 2 回 理事会 中間報告

日 時 令和3年6月24日（木曜日） 午後 13時～

場 所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室

出席者 6名(欠員0名) 戸田監事・中村監事

議 長 北野理事 署名人 小野寺理事長・戸田監事・中村監事

議事録作成者 事務局 小野寺(保育園副園長)・加藤事務長(老人施設)・古川(在宅統括)

議 案

- (1) 決議事項
- 第 1号議案 社会福祉法人慈童会 新理事長の選任について(案)

その他

第 3 回 理事会 中間報告

日 時 令和3年11月17日（水曜日） 午前 9時30分～

場 所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室

出席者 6名(欠員0名) 戸田監事・中村監事

議 長 北野理事 署名人 小野寺理事長・戸田監事・中村監事

議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺(保育園副園長)・加藤事務長(老人施設)・古川(在宅統括)

議 案

- (1) 決議事項
- 第 1号議案 令和3年度 資金収支第1次補正予算(案)について
 - 第 2号議案 令和3年度 半期収支決算報告(案)について
 - 第 3号議案 くすのき園訪問介護事業所 運営規程の一部変更(案)について
 - 第 4号議案 くすのき園介護予防・日常生活支援総合事業訪問介護事業所 運営規程の一部変更(案)について
 - 第 5号議案 居宅介護事業所くすのき園 運営規程の一部変更について
 - 第 6号議案 くすのき園居宅介護支援事業所 運営規程の一部変更(案)について
 - 第 7号議案 令和4年度鈴鹿市認知症総合支援事業に係るプロポーザル方式による行美委託事業の選定(案)について
 - 第 8号議案 令和3年度 第2回 評議員会の開催について(案)
- (2) 報告事項
- 第 1号報告 前年度決算書類等の一部変更による差し替えについて
 - 第 2号報告 令和3年度 中間事業報告について
 - 第 3号報告 社会福祉法人 慈童会 定款変更認可について
 - 第 4号報告 令和3年度社会福祉施設指導監査の実施及び結果について
 - 第 5号報告 特養ホーム給湯設備大規模修繕計画の実施について
- その他
- ・第4地域包括支援センターの事務所移動について
 - ・法人設立40周年記念について

第 4 回 理事会 決議事項の書面による同意

日 時 令和 4年 3月18日（金曜日）

同 意 者 6名(欠員0名)

議事録作成者 小野寺理事長

議 案

- (1) 決議事項
- 第 1号議案 令和4年度北部認知症支援総合事業(仮称)に関する業務委託契約の締結(案)について
 - 第 2号議案 社会福祉法人慈童会 定款の一部変更(案)について
 - 第 3号議案 令和4年度事業計画の制定(案)について
 - 第 4号議案 令和4年度資金収支予算の制定(案)について
 - 第 5号議案 社会福祉法人慈童会 就業規則一部変更(案)について
 - 第 6号議案 社会福祉法人慈童会 育児介護休業等に関する規則の一部変更(案)について
 - 第 7号議案 社会福祉法人慈童会 給与規定の一部変更(案)
 - 第 8号議案 社会福祉法人慈童会 経理規程の一部変更(案)について

- 第 9号議案 くすのき園訪問介護事業所 運営規程の一部変更(案)について
- 第10号議案 くすのき園訪問介護事業所 運営規程の一部変更(案)について介護予防・日常生活支援
総合事業訪問介護事業所 運営規程の一部変更(案)について
- 第11号議案 居宅介護事業所くすのき園 運営規程の一部変更(案)について
- 第12号議案 社会福祉法人慈童会 介護福祉士小楽器ん規程の一部変更(案)について
- 第13号議案 社会福祉法人慈童会 就職支度金の支給に関する規程の制定(案)について
- 第14号議案 社会福祉法人慈童会 テレワーク勤務規程の制定(案)について
- 第15号議案 令和4年度 給食業務委託契約書の締結(案)について
- 第16号議案 令和3年度第3回評議員会の開催(案)について

令和3年度 社会福祉法人 慈童会 評議員会開催状況

第 1 回 定時評議員会

日 時 令和3年6月24日（木曜日） 午前 9時30分～

場 所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室

出席者 6名(欠員1名) 戸田監事

議 長 豊田評議員 署名人 小野寺理事長・高木評議員・伊藤評議員

議事録作成者 加藤事務長 事務局 鈴木理事・小野寺保育園副園長・加藤事務長・古川在宅統括

議 案

- (1) 決議事項
- 第 1号議案 令和2年度 事業報告の承認(案)について
 - 第 2号議案 令和2年度 資金収支第3次補正予算(案)について
 - 第 3号議案 令和3年度 資金収支決算書の承認(案)について
 - 第 4号議案 社会福祉法人慈童会 中期経営計画の策定(案)について
 - 第 5号議案 社会福祉法人慈童会 理事及び監事の選任(案)について
- (2) 報告事項
- 第 1号報告 社会福祉法人慈童会 評議員選任・解任委員の選任について
 - 第 2号報告 社会福祉法人慈童会 苦情解決第三者委員の任命について
 - 第 3号報告 社会福祉法人慈童会 内部経理監査人の任命について
 - 第 4号報告 くすのき園訪問介護事業所 運営規程の一部変更について
 - 第 5号報告 くすのき園介護予防・日常生活支援総合事業訪問介護事業所 運営規程の一部変更について
 - 第 6号報告 居宅介護事業所くすのき園 運営規程の一部変更について
 - 第 7号報告 在宅介護支援センターくすのき園の事業廃止に係る基本財産処分承認申請について
 - 第 8号報告 令和3年度鈴鹿亀山地区広域連合 第4地域包括支援センター業務委託契約の締結について
 - 第 9号報告 令和3年度第2回理事会の招集について
 - 第10号報告 特養ホーム給湯器更新工事契約書の締結について

その他

第 2 回 評議員会

日時 令和3年11月29日（月曜日） 午前 9時30分～
場所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室
出席者 7名(欠員0名)
議長 豊田評議員 署名人 小野寺理事長・中川評議員・田中評議員
議事録作成者 加藤事務長 事務局 北野・鈴木理事・小野寺保育園副園長・加藤事務長・古川在宅

議案

- (1) 決議事項
- 第 1号議案 令和3年度 資金収支第1次補正予算(案)について
 - 第 2号議案 令和3年度 半期収支決算報告(案)について
 - 第 3号議案 令和4年度鈴鹿市認知症総合支援事業に係るプロポーザル方式による業務委託者選定(案)について
- (2) 報告事項
- 第 1号報告 前年度決算書類等の一部変更による差し替えについて
 - 第 2号報告 令和3年度 中間事業報告について
 - 第 3号報告 社会福祉法人慈童会 新理事長の選任について
 - 第 4号報告 社会福祉法人慈童会 定款変更認可について
 - 第 5号報告 令和3年度社会福祉施設指導監査の実施及び結果について
 - 第 6号報告 特養ホーム給湯設備大規模修繕計画の実施について
 - 第 7号報告 くすのき保育園大規模改修計画について園
 - 第 8号報告 くすのき園 介護予防・日常生活支援総合事業訪問介護事業所運営規程の一部変更について
 - 第 9号報告 居宅介護事業所くすのき園 運営規程の一部変更について
 - 第10号報告 くすのき園 居宅介護支援事業所 運営規程の一部変更について

その他

- ・鈴鹿第4地域包括支援センターの事務所移動について
- ・法人設立40周年記念について

第 3 回 評議員会 決議事項の書面による同意

日時 令和 4年 3月30日（水曜日） 9時30分～
場所 特別養護老人ホームくすのき園 または評議員の自宅
同意者 7名(欠員0名)
議事録作成者 小野寺理事長

議案

- (1) 決議事項
- 第 1号議案 令和4年度 北部認知症支援総合事業(仮称)に関する業務委託契約の締結(案)について
 - 第 2号議案 社会福祉法人慈童会 定款の一部変更(案)について
 - 第 3号議案 令和4年度 事業計画の制定(案)について
 - 第 4号議案 令和4年度 資金収支予算の制定(案)について

その他

総務・管理部

1. 総括～年度目標から～

年度目標：事業継続の一端を担う

社会福祉法人慈童会中期経営計画を策定し、各事業所のビジョン、課題、戦略及び未来像を明確にすることにより3年後に、あるべき姿を示した。中期経営計画発表会において周知を図ると共に、事業年度中間は中間報告会を開催し進捗状況の確認をした。1年目の振り返りとして事業継続の基となる理念と行動計画に基づく行動の追求を推し進め、最も優先されることは利用者が主体であり、利用者が精神的に、また身体的に幸福であるかを常に意識し行動し続けなければならない。

年度目標：職員が幸せな職場づくり

地域の中で福祉サービスを必要とする方々のために、満足度の高いサービス提供を行うことで地域の方々に存在価値を認められる、喜ばれる、役立っているという社会貢献の実感を職員が得られる職場づくりを目指してきた。この点においては各事業所における利用者満足度調査結果で見える事ができる。一方で職員が利用者のために望む介護や「やりがい」が十分に果たせていない点については、さらに意識改革と行動変容を求める必要がある。

育児休暇から復帰した職員、育児短時間労働で働く職員の増加、有給休暇取得率に事業所間ではらつきはあるものの比較的取得しやすい環境になっていることからワークライフバランスの点では環境も整ってきた。心と身体的負担軽減を目的にノー残業デー設けているが、残業の改善は仕事とプライベートの両者充実のため、さらに進めていく。

2. 経営基盤の強化

法人の目的を達成するために、効率的・確実的に運営できるようよう人材、財務、修繕を主としてマネジメントし、法人全体の付加価値額は59445万円に至るが、一方で人件費率は69.7%で労働分配率は93.4%と高水を維持している。

時代や地域のニーズに合ったサービスを需要と供給のバランスをとりながら、安定した収益性を保つ経営感覚を身につける必要がある。

※実績検討会の開催 年間12回。

接遇・サービスの質向上策、収益最大策、経費最小策、時間最短策の視点で目標実行振り返りを行った。職員の理解を深めるための予算実績管理表を作成し前年度比較や執行状況を報告している。

※月次試算表から財務分析を行い、予算執行率や人件費、事業活動収支差額を報告するとともに、適正に補正予算を組むことができた。

※会計書類の作成を内部統制の観点から一部、業務分掌を行っている。

3. 地域包括ケアシステムの推進

・コロナウイルス感染症蔓延予防のため、昨年に引き続きボランティアの受け入れが一切できず、地域住民や高齢者等の生きがいの場として、活躍できる場所の提供ができていない。

・地域住民と利用者との繋がりを絶ってしまっており、感染症の収束とともに再開を検討し、利用者と社会の繋がりとボランティアの主体性と存在価値を高めていく。

・次世代育成としての職場体験の受け入れや学生のインターンシップの受け入れについては、一部の学生実習に留まった。

・認知症を地域で支える目的を持った認知症カフェの開催もできず、交流が図れず、地域貢献ができていない。

4. 人材育成

- ・受動的ではなく能動的に自分の立場を理解し行動、立ち位置を構築しているか、またそのチャンスを十分に与えられたかどうか、の点では改善の余地がある。
- ・風通しのよい職場を目指し、声をかけやすい雰囲気大切にすると共に、責任感と協調性のある仕事をし、現場が働きやすくなるための協力を惜しまない。意思疎通がしやすいよう積極的にコミュニケーションを取るように隙間時間を活用した。
- ・人事評価力及び面談力を向上するための研修は計画するも、実行に至らなかった。
- ・社会福祉法人の事務職員として、また出納職員としての知識向上のため事務職全員がWEB会議を受講した。
- ・積極的に学び考え、実践しながら様々な分野についてバランスよく身につけ組織マネジメント力、コミュニケーション能力を向上させる。

5. 労働環境

(1)職員採用

学校訪問を行い、高校生新卒採用を計画したが、採用には至っていない。募集広告や人材派遣会社、職員紹介会社利用など様々な手段により職員採用活動を行った。定着のための職場環境を整えることも必要。

(2)感謝と承認

グッジョブカードを活用して、お互いの行動を認め合う、また褒め合える職場風土を醸成するための取り組みを開始した。職員のモチベーションアップや自主性に繋がっていくことを期待している。

(3)コロナ感染症予防対策

勤務開始時に検温及びセルフチェック表の記入を行うとともに、手指消毒の徹底、蔓延防止期間にはエッセンシャルワーカーとして外出外食を控えるなど自己管理に職員全員が取り組んだ。

定時に一斉消毒を行うことにより感染の危険性を低く保った。

三重県からの無料PCR検査の協力を得て、概ね2週間間隔で検査を受け早期発見、蔓延防止に努めることができている。

(4)経営企画会議（管理部会議）全41回。毎週月曜日11時から開催。

利用者、その家族、地域住民及び職員の役に立つ事業の存続と発展のために、業績把握、事業計画及び事業活動について検討する会議を開催した。

出席者：理事長 施設長 在宅統括責任者 事務長 センター長

(5)幹部会議 全12回。毎月第2金曜日16時から開催。

各事業所の運営や収支状況の現状報告、情報及び問題点を共有することで、改善策を立て円滑な事業運営を図る目的で会議を開催した。

出席者：施設長 在宅統括責任者 管理者 介護長 事務長 主任 副主任 センター長

開催数：年12回（毎月第2金曜日）

(6)苦情受付

苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員を選任し、担当ポスターを掲示すると共に苦情受付ボックスを玄関前に設置している。苦情受付ボックスへの投書はなかった。

年間苦情件数2件（前年度マイナス24件）

うち 保険者等への相談0件、うち、第三者委員への相談0件。

(7)事故報告

事故の発生後は報告書を提出して情報の共有を図っている。事故対策委員会を設置し、事故予防対策を話し合う機会を持つようにし、再発防止に努めている

年間事故発生件数140件（前年マイナス38件）

うち保険者等への報告7件、うち施設の損害補償保険請求件 7件（前年マイナス1件）

地域貢献活動

活動内容

(1) 介護予防（出前講座）開催

鈴鹿市より受託した介護予防普及啓発事業は、新型コロナウイルス対策として前年度参加された皆様に介護予防運動の啓発として介護予防プログラムを介護予防カレンダーとともに郵送した。

日 時	内 容	場 所	参加者
R 3. 7. 20	運動講座	山辺町集会所	15名

(2) 介護機器等の貸出し

令和3年度	品 目	内 容
1回	車椅子	利用者様に貸し出し

(3) 社会参加活動の受入

学 校 名	実習内容	人数
三重県中央自動車学校	交通違反者からボランティア活動（除草・窓ガラス清掃・車椅子清掃・	32人

コロナウイルス感染症の拡大で一時的に受け入れを中止する時期があった。

(4) その他 地域貢献事業

事業名	実施主体
・みえ福祉の「わ」創造事業 協力	三重県社会福祉協議会

(5) 認知症カフェの開催

毎月30日に開催する予定であった認知症カフェは、飲食を伴う事業でもあり新型コロナウイルス感染拡大防止対策がとれず、中止することとした。

認知症に関心が高い参加者にとっては交流や情報交換の場として、また閉じこもりがちな参加者の活躍の場として賑わえるカフェが開催できず、地域の方々の生活の質向上の場の提供ができなかった。

今後への展望・課題

コロナウイルス感染症の影響にて介護予防教室、認知症カフェ等開催の計画をするものの出前講座を1回開催することにとどまった。コロナウイルス感染症についても減少傾向に向かう時期があったものの年間を通じてどのように実施していくかが今後の課題である。WEBでの介護予防教室の実施を含めて、次年度地域の方の介護予防につながる活動をこれまで以上に積極的に行いたい。

外部研修会

目標 職員の資質の向上を目指しサービス業としての意識改革を図る

外部研修は昨年度に比較して減少したが、WEB 研修を昨年活用し、良好だったので新型コロナウイルスの関係で大幅に増加した。

- 三重県老協・県社協・県経営者協議会・県健康福祉部・三重県ディサービス協議会関係
三重県介護支援専門員協会・県看護協会等

研修名	実施日	参加人数	研修場所
入院者を出さない?ケアと経営の一体化3ステップセミナー	4/20	1	WEB
介護予防サービス支援計画書の立て方	5/15	1	WEB
社会福祉施設における感染症対策研修	5/20	3	WEB
サービス提供責任者研修	6/4 6/30 7/3 7/5 7/24	1	津市勤労福祉会館
対人援助に効くストレスマネジメント	6/15	1	WEB
看取り施設でできること	6/24	1	WEB
社会福祉施設における実効性のある避難対策推進事業キック オフ講演会	6/28	1	WEB
サービス提供責任者研修	6/30 7/3 7/5	1	WEB
地域共生社会創りに関する社会福祉法人の役割と期待	7/20	1	三重県総合文化センター
人材確保支援助成金、働き方改革推進支援助成金、業務改善 助成金、両立支援助成金	7/21	2	WEB
職場におけるハラスメント対策等	7/28	2	WEB
サービス提供責任者研修	7/31	1	WEB
チームリーダーコース	8/12-13	1	WEB
介護記録の理解、記録利基礎研修	8/27	2	WEB
中堅職員研修	9/9-10	1	三重県社会福祉会館
認知症対応型サービス事業者管理者研修	9/15-16	1	WEB
アンガーマネジメント	9/17	1	WEB
リーダーシップ研修	9/22	1	WEB
採用サイトパンフの作成講座	9/24	1	WEB
中堅職員研修	9/28-29	1	三重県社会福祉会館
排泄支援加算取得へ向けた研修	9/29	2	WEB
中堅職員研修	10/7-8	1	三重県社会福祉会館
人権問題及び権利擁護に関する研修	10/13	1	WEB
介護施設で働く看護職の為に研修	10/22 11/17 11/25	1	三重県看護研修会館
クライスマネジメント	10/25	2	WEB
新型コロナウイルス感染症対策	11/4	3	WEB
介護現場のコミュニケーション技術	11/22	1	WEB
エンドオブライフケア	12/3	2	WEB
LIFEについて	12/7	3	WEB
事業継続計画策定研修会	12/8	2	WEB
タイムマネジメント	12/10	1	WEB
三重県経営協 会計講座	11/22~26	1	WEB
社会福祉施設のクレーム対応	12/11	2	WEB
初任者研修	11/1-12/1	1	三重県社会福祉会館
令和3年度福利厚生センター広報講習会	1/17	2	WEB

労働関係法令説明会	1/19	1	WEB
経営協研修	1/21	1	WEB
認知症高齢者のケアマネジメント	1/21	3	WEB
軽費ケア部会研修会（ハラスメント）	1/25	2	WEB
事業継続計画策定研修会	1/26	1	WEB
口腔ケアに関する研修会	1/27	1	WEB
特養部会記録の書き方表現法研修会	1/28	1	WEB
東海北陸ブロックカントリーミーティング	2/8	1	WEB
食と健康フォーラム	2/10	2	WEB
令和3年度三重県経営協 経営セミナー	3/22～末	1	WEB

45回 64名

● 全国社会福祉協議会・全国老施協・全経営協

研修名	実施日	参加人数	研修場所
社会福祉法人会計基準実践的基礎研修	4/17 4/25 4/30	1	WEB
コロナワクチン接種時に看護師が行う準備と役割について	5/17	6	WEB
介護施設における安全対策担当者養成研修	6/1	1	WEB
介護施設の安全衛生担当者リスクマネジメント研修	6/29	1	WEB
社会福祉法人 人事労務管理講座	10/25	1	WEB
老施協トップセミナー	12/9	1	WEB
会計基準実践基礎研修	2/4～3/11 随時	5	WEB

7回 16名

● 鈴鹿保健福祉部・鈴鹿地区連絡協議会・鈴鹿地区介護支援専門員協議会・
鈴鹿保健所・鈴鹿市役所関係・鈴鹿市サービスセンター協議会

研修名	実施日	参加人数	研修場所
STEP UP 研修 PART1	10/15	1	WEB
地域包括在宅医療システム ACP 委員会	10/29	1	市役所
より良い排泄ケア研修	11/12	1	WEB
ステップアップ研修パート2	11/19	1	WEB

4回 4名

● その他

研修名	実施日	参加人数	研修場所
CHASE & VIST LIFE の活用セミナー	4/7	2	WEB
介護報酬改定研修会/栄養	4/13	2	WEB
認知を考える会プラスワン	4/21	4	WEB
介護報酬改定研修会第3回	5/11	2	WEB
ビジネスマナー向上	5/19	3	WEB
食事・排泄から考える褥瘡ケア	5/27	2	WEB
安全運転管理者講習会	6/2	1	四日市文化会館
そうだったのか訪問	6/2	2	WEB
認知症基礎研修	6/3	1	WEB
クレーム・苦情対応	6/4	1	WEB
高齢者の病気の特徴	6/4	2	WEB

認知症の3分類	6/4	2	WEB
職員の健康管理	6/7	2	WEB
摂食嚥下の基本	6/7	1	WEB
接遇の理解と現場にふさわしい言葉使い	6/7	1	WEB
解剖学で座位を考える研修	6/7	2	WEB
高齢者の転倒予防	6/7	2	WEB
個人情報の取り扱い	6/8	1	WEB
利用者の真の主訴を考える	6/8	1	WEB
接触嚥下の基本	6/8	1	WEB
異常の早期発見の為の観察の視点	6/8	2	WEB
ケアする事の根拠	6/8	1	WEB
接遇の理解と現場にふさわしい言葉使い研修	6/9	3	WEB
チーム及び組織力向上1	6/9	1	WEB
遊びりテーションとは	6/9	1	WEB
高齢者の病気の特徴	6/9	1	WEB
食事介助時の姿勢	6/9	1	WEB
感染対策において求められるもの	6/10	2	WEB
自立支援とは	6/10	1	WEB
看取りとは	6/10	2	WEB
聞き上手なリーダーとなる為に	6/10	1	WEB
高齢者の転倒予防	6/10	2	WEB
チームで取り組むということの意味	6/11	1	WEB
認知症の特徴と多職種連携の必要性	6/11	2	WEB
腰痛予防対策と腰を痛めない介護法	6/11	1	WEB
高齢者の病気の特徴	6/11	1	WEB
標準感染予防策研修	6/11	1	WEB
食事介助時の姿勢	6/13	1	WEB
姿勢ケアの基本的な考え方	6/14	1	WEB
行動・心理症状（問題行動は、なぜ起こるのか）	6/14	1	WEB
認知症実践者研修	6/15 6/25 6/29 7/1 7/6 7/8	2	WEB
拘縮のケア	6/15	2	WEB
標準感染予防策	6/16	1	WEB
記録のポイント	6/16	2	WEB
職員の健康管理	6/16	1	WEB
認知症ケアの専門性を理解する	6/16	1	WEB
科学的介護の推進・業界動向	6/17	1	WEB
変化を嫌う職員の特性を理解する	6/17	1	WEB
不適切ケアと虐待、他	6/18	1	WEB
異常の早期発見の為の観察の視点	6/18	1	WEB
食形態の分類	6/18	1	WEB
言い方を変えるだけで後輩（部下）が育つ	6/18	1	WEB
高齢者の転倒予防	6/19	1	WEB
看取りとは	6/19	1	WEB
拘縮のケア	6/20	1	WEB
ケアする事の根拠	6/21	1	WEB
新人教育の前に知っておきたいリーダーの心構え	6/21	1	WEB
行動心理症状（問題行動）はなぜ起こるのか	6/21	1	WEB
遊びりテーションとは	6/21	1	WEB

認知症の特徴と多職種連携に必要性	6/21	1	WEB
チームワークを気付く為に必要な視点と合意形成	6/21	1	WEB
介護施設における安全対策担当者養成研修	6/22	1	WEB
標準感染予防策	6/23	1	WEB
看取りケアの基本研修	6/24	1	WEB
食形態の分類	6/24	1	WEB
認知症実践者研修	6/25	2	WEB
ヒヤリハットの目的と意義	6/25	1	WEB
介助の基本	6/25	1	WEB
安全の決め手となるコミュニケーションと確認	6/25	2	WEB
廃用症候群の知識と坐位の効果	6/26	1	WEB
安全の決め手となるコミュニケーションと確認	6/26	1	WEB
13 拘縮のケア No33	6/28	1	WEB
緊急時対応	6/28	1	WEB
認知症実践者研修	6/29	2	WEB
変化を嫌う職員の特性を理解する	6/29	1	WEB
緊急時対応	6/29	1	WEB
緊急時対応	6/30	1	WEB
グリーンストック説明	6/30	1	WEB
認知症実践者研修	7/1	2	WEB
虐待におけるアセスメントの視点	7/3	1	WEB
認知症の3分類	7/5	2	WEB
職員の健康管理	7/5	1	WEB
15分フォローアップ研修	7/5	2	WEB
認知症実践者研修	7/6	2	WEB
高齢者の転倒予防	7/7	2	WEB
認知症実践者研修	7/8	2	WEB
高齢者の病気の特徴	7/8	1	WEB
パワハラ防止法義務化に対応する案がマネジメント	7/9	1	WEB
アンガーマネジメント	7/9	1	WEB
入職前キャリア別対応方	7/9	1	WEB
専門研修課程 I	7/10	1	WEB
記録のポイント	7/11	1	WEB
高齢者の転倒予防	7/11	1	WEB
食後の口腔ケア	7/11	1	WEB
介護の専門性を守る為に	7/12	1	WEB
認知症の3分類	7/12	1	WEB
認知症の3分類	7/13	2	WEB
利用者の真の主訴を考える	7/13	1	WEB
感じの良い挨拶	7/13	1	WEB
BCP 策定義務化に対応するためのポイント解説	7/14	2	WEB
認知症実践者研修	7/14	2	WEB
BCP 対応ポイントセミナー	7/14	2	WEB
拘縮のケア	7/16	2	WEB
専門研修課程 I	7/17	1	WEB
不適切ケアを考える。	7/19	2	WEB
摂食嚥下の基本	7/19	1	WEB
認知症の特徴と多職種連携の必要性	7/19	2	WEB
クレーム・トラブル対応	7/19	1	WEB

食事介助の姿勢	7/19	2	WEB
「痛み」への対応	7/19	1	WEB
記録研修1	7/20	1	WEB
緊急時の対応	7/20	2	WEB
15分フォローアップ研修	7/21	2	WEB
高齢者の病気の特徴	7/22	1	WEB
認知症の3分類	7/26	3	WEB
15分フォローアップ研修	7/26	1	WEB
30分フォローアップ研修	7/26	1	WEB
認知症の3分類	7/27	1	WEB
15分フォローアップ研修	7/27	1	WEB
職員のワークエンゲージメントを高めるためのヒント	7/28	1	WEB
チーム及び組織力向上2	7/28	1	WEB
認知症の3分類	7/30	1	WEB
信頼関係の構築	7/30	1	WEB
食形態の分類	8/2	1	WEB
認知症実践者研修	8/2	1	WEB
高齢者の病気の特徴	8/2	2	WEB
高齢者の病気の特徴	8/3	1	WEB
高齢者の転倒予防	8/4	1	WEB
報告の仕方	8/4	1	WEB
認知症の3分類(7月研修分)	8/4	1	WEB
高齢者の病気の特徴	8/5	1	WEB
認知症の3分類	8/5	1	WEB
緊急時対応	8/5	1	WEB
高齢者の転倒予防	8/5	1	WEB
30分フォローアップ研修	8/6	1	WEB
褥瘡発生のメカニズムとずれについて	8/6	1	WEB
介護の専門性を守る為に	8/6	1	WEB
高齢者の病気の特徴	8/6	1	WEB
接遇の理解と現場にふさわし言葉使い	8/6	1	WEB
30分研修	8/6	1	WEB
高齢者の病気の特徴	8/7	1	WEB
高齢者の病気の特徴	8/8	1	WEB
15分フォローアップ研修	8/10	3	WEB
食後の口腔ケア	8/11	1	WEB
接遇の理解と現場にふさわし言葉使い	8/11	2	WEB
15分フォローアップ研修	8/11	1	WEB
クレーム・苦情対応	8/12	1	WEB
チーム及び組織力向上3	8/12	1	WEB
ウインケアセミナー	8/13	1	WEB
高齢者の病気の特徴	8/13	2	WEB
介護職員の医療外行為	8/14	1	WEB
姿勢ケアの基本的な考え方	8/15	1	WEB
拘縮のケア	8/17	1	WEB
15分フォローアップ研修	8/17	2	WEB
高齢者の転倒予防	8/19	1	WEB
15分フォローアップ研修	8/19	1	WEB
認知症実践者研修	8/20	1	WEB

認知症の特徴と多職種連携の必要性	8/20	2	WEB
脳卒中の主な障害	8/20	1	WEB
15分フォローアップ研修	8/20	1	WEB
アセスメントに自信が持てる	8/21	1	WEB
15分フォローアップ研修	8/22	1	WEB
立ち上がりを理解する	8/24	1	WEB
認知症実践者研修	8/24	1	WEB
認知症実践者研修	8/25	1	WEB
15分フォローアップ研修	8/25	1	WEB
認知症の3分類	8/26	2	WEB
15分フォローアップ研修	8/26	1	WEB
認知症実践者研修	8/27	1	WEB
認知症ケアの専門性を理解する	8/29	1	WEB
インフルエンザ・ノロウイルス対応	8/30	1	WEB
腰痛予防策と腰を痛めない介助法	8/30	2	WEB
高齢者の病気の特徴	8/31	1	WEB
認知症実践者研修	9/1	1	WEB
高齢者の転倒予防	9/1	1	WEB
褥瘡発生のメカニズムとズレについて	9/2	1	WEB
インフルエンザ・プロウイルス対応	9/2	1	WEB
認知症実践者研修	9/3	1	WEB
信頼関係の構築	9/3	2	WEB
感染対策において求められるもの	9/3	1	WEB
正常な排泄とは	9/3	2	WEB
食事形態の分類	9/5	1	WEB
高齢者の転倒予防	9/5	1	WEB
接遇の理解と現場にふさわしい言葉遣い	9/6	1	WEB
食事支援のための研修 1	9/6	2	WEB
クレーム・苦情対応	9/6	1	WEB
認知症実践者研修	9/7	1	WEB
看取りケアの基本	9/7	1	WEB
誤飲時の対応	9/7	2	WEB
ACPについて	9/8	1	WEB
看取りケアの基本	9/8	2	WEB
クレーム・苦情対応	9/8	1	WEB
新人教育の前に知っておきたいリーダーの心構え	9/9	1	WEB
報告の仕方	9/9	1	WEB
ケアコラボ打ち合わせ	9/9	2	WEB
高齢者の病気の特徴	9/10	1	WEB
接遇の理解と現場にふさわしい言葉遣い	9/10	2	WEB
高齢者の心身の特徴	9/10	1	WEB
15分フォローアップ研修	9/11	2	WEB
介護の専門性を守るために	9/12	1	WEB
行動・心理症状（問題行動）は、なぜ起こるにか	9/13	2	WEB
高齢者の心身の特徴	9/13	3	WEB
15分フォローアップ研修	9/14	1	WEB
緊急時対応	9/15	1	WEB
チーム及び組織力向上 4	9/15	1	WEB
管理者研修	9/15	1	WEB

15分フォローアップ研修	9/15	1	WEB
15分フォローアップ研修	9/16	1	WEB
標準感染予防	9/16	1	WEB
管理者研修	9/16	1	WEB
15分フォローアップ研修	9/16	1	WEB
15分フォローアップ研修	9/17	1	WEB
看取りケアの基本	9/20	1	WEB
遊びリテーション	9/20	1	WEB
15分フォローアップ研修	9/20	2	WEB
不適切ケアを考える	9/21	1	WEB
遊びリテーション	9/21	2	WEB
15分フォローアップ研修	9/23	1	WEB
遊びリテーション	9/24	1	WEB
緊急時対応	9/26	1	WEB
記録の目的	9/28	1	WEB
CM協会鈴亀支部研修会	9/29	1	WEB
拘縮のケア	10/1	1	WEB
行動・心理症状はなぜ起こるのか	10/1	1	WEB
看取りケアの基本	10/2	1	WEB
チームで取り組むという事の意味	10/2	1	WEB
記録のポイント	10/3	1	WEB
ヒヤリハットの目的と意義	10/4	1	WEB
30分研修	10/4	1	WEB
高齢者の病気の予防	10/5	1	WEB
高齢者の転倒予防	10/5	1	WEB
高齢者の病気の特徴	10/5	1	WEB
30分研修	10/5	1	WEB
感じのいい挨拶	10/6	1	WEB
バイステックの7原則	10/6	1	WEB
高齢者の転倒予防	10/6	1	WEB
摂食嚥下の基本	10/7	1	WEB
合同事例検討会	10/7	6	WEB
介護職員の医療外行為	10/8	1	WEB
接遇の理解と現場にふさわしい言葉使い	10/8	1	WEB
30分研修	10/8	1	WEB
15分フォローアップ研修	10/9	1	WEB
誤食時の対応	10/10	1	WEB
15分フォローアップ研修	10/10	1	WEB
記録のポイント	10/11	1	WEB
15分フォローアップ研修	10/11	1	WEB
介護の専門性を守るために	10/12	1	WEB
バイスティックの7原則	10/12	1	WEB
チームで取り組むという事の意味	10/12	1	WEB
褥瘡発生のメカニズムとずれについて	10/13	1	WEB
緊急時対応	10/13	1	WEB
人材採用セミナー	10/13	1	WEB
変化を嫌う職員の特徴を理解する	10/14	1	WEB
摂食嚥下の基本	10/14	1	WEB
変化を嫌う職員の特徴を理解する	10/14	1	WEB

高齢者の病気の特徴	10/14	1	WEB
クレーム・苦情対応	10/15	1	WEB
褥瘡発生メカニズムとずれについて	10/15	1	WEB
15分フォローアップ研修	10/15	1	WEB
報告の仕方	10/16	1	WEB
記録のポイント	10/17	1	WEB
看取りケアの基本	10/17	1	WEB
クレーム・苦情対応・	10/18	1	WEB
行動・心理症状はなぜ起こるのか	10/18	1	WEB
緊急時対応	10/19	1	WEB
行動・心理症状はなぜ起こるのか	10/19	1	WEB
15分フォローアップ研修	10/19	1	WEB
感じのいい挨拶	10/20	2	WEB
15分フォローアップ研修	10/21	3	WEB
15分フォローアップ研修	10/23	1	WEB
記録のポイント	10/24	2	WEB
労務管理(全経協)	10/25・26	1	WEB
行動・心理症状はなぜ起こるのか	10/26	1	WEB
接遇の理解と現場にふさわしい言葉使い	10/28	2	WEB
介護の専門性を守るために	10/30	1	WEB
接種嚥下リハビリテーション分野初任者研修	11/1	2	WEB
標準感染予防対策	11/1	2	WEB
リーダーの役割	11/2	1	WEB
異常の早期発見のための観察の視点	11/2	1	WEB
解剖学で座位を考える	11/3	2	WEB
行動・心理症状(問題行動)は、なぜ起こるのか	11/4	1	WEB
認知症ケアの専門性を理解する	11/4	1	WEB
言葉の影響	11/4	1	WEB
利用者の真の主訴を考える	11/5	1	WEB
記録のポイント	11/6	1	WEB
褥瘡発生メカニズムとずれについて	11/7	1	WEB
利用者の真の主訴を考える	11/8	2	WEB
記録のポイント	11/8	1	WEB
介護の専門性を守るために	11/9	1	WEB
ことばの影響	11/9	1	WEB
立ち上がりを理解する	11/9	1	WEB
認知症の3分類	11/9	1	WEB
報告の仕方	11/10	1	WEB
摂食嚥下研修	11/10	1	WEB
インフルエンザ・ノロウイルス対策	11/11	1	WEB
接遇の理解と現場にふさわしい言葉使い	11/11	1	WEB
腰痛予防対策と腰を痛めない介助法	11/12	1	WEB
訪問看護啓発研修会	11/12	1	WEB
介護職員の医療外行為	11/13	1	WEB
チームで取り組むということの意味	11/14	1	WEB
介護の基本	11/14	1	WEB
摂食嚥下研修	11/15	2	WEB
おすすめ体操	11/15	1	WEB
摂食嚥下研修	11/16	2	WEB

モルテン	11/16	1	WEB
記録のポイント	11/16	2	WEB
日本経営面談	11/16	1	WEB
働きやすい職場作りのためのアンダーコントロール研修	11/17	1	WEB
チーム及び組織力向上1	11/17	1	WEB
認知症ケアの専門性を理解する	11/17	1	WEB
摂食嚥下研修	11/18	2	WEB
地域連携室ゆいまーる研修会	11/18	1	WEB
高齢者の転倒予防	11/19	1	WEB
介護職員の医療外行為	11/20	1	WEB
摂食嚥下研修	11/22	2	WEB
コミュニケーション技術	11/22	1	WEB
立ち上がりを理解する	11/23	1	WEB
摂食嚥下研修	11/24	2	WEB
無理のない業務改善の仕組みづくり	11/24	1	WEB
摂食嚥下研修	11/25	2	WEB
自立支援とは	11/25	1	WEB
主任介護支援専門員研修テスト	11/25	1	WEB
認知症介護実践リーダー研修	11/26	1	WEB
看取りとは	11/26	1	WEB
15分フォローアップ研修	11/28	1	WEB
楽ワザ介護術～できる事を応援する～	11/29	1	WEB
認知症介護実践リーダー研修	11/30	1	WEB
記録のポイント	12/1	1	WEB
食後の口腔ケア	12/1	1	WEB
ことばの影響	12/2	1	WEB
対人トラブルの心理学	12/2	1	WEB
感じの良い挨拶	12/2	1	WEB
エンドオブライフケア	12/3	1	WEB
ヒヤリハットの目的と意義	12/3	1	WEB
チームで取り組むという事の意味	12/3	1	WEB
遊びセッションとは	12/4	1	WEB
介護の基本	12/5	1	WEB
行動、心療症状問題行動は起こるのか	12/6	1	WEB
主任介護支援専門員研修	12/8	1	WEB
一般的介助の食事支援	12/8	2	WEB
立ち上がりを理解する	12/8	1	WEB
自立支援とは	12/8	1	WEB
事例研究会	12/8	1	WEB
主任介護支援専門員研修	12/9	1	WEB
ヒヤリハットの目的と意義	12/9	1	WEB
リーダーの役割	12/9	1	WEB
認知症の特徴と多職種連携の必要性	12/9	1	WEB
タイムマネジメント	12/10	1	WEB
主任介護支援専門員研修	12/10	1	WEB
クレーム・トラブル対応	12/12	1	WEB
異常の早期発見のための観察の視点	12/13	1	WEB
ヒヤリハットの目的と意義	12/13	1	WEB
チームで取り組むということの意味	12/13	1	WEB

看取りケアの基本	12/14	1	WEB
認知症の特徴と多職種連携の必要性	12/15	1	WEB
拘縮のケア	12/16	1	WEB
感染対策において求められるもの	12/16	1	WEB
エンドオブライフケア援助者用生基礎講座 1 日目	12/18	1	WEB
医療から介護へ介護の根拠は何か	12/18	1	WEB
エンドオブライフケア援助者用生基礎講座 2 日目	12/19	1	WEB
パystackの7原則	12/20	1	WEB
クレーム・トラブル対応	12/21	2	WEB
15分フォローアップ研修	12/24	1	WEB
身体拘束防止の具体策	12/25	1	WEB
15分フォローアップ研修	12/25	1	WEB
15分フォローアップ研修	12/27	1	WEB
ミーティング	12/28	1	WEB
解剖学で座位を考える	12/30	1	WEB
医療から介護へその1	12/31	1	WEB
社会福祉法人の給与計算実務	12/17-20	1	WEB
誤飲時の対応	1/1	1	WEB
信頼関係の構築	1/3	1	WEB
入浴のアセスメント	1/4	1	WEB
褥瘡発生メカニズムとずれについて	1/5	1	WEB
認知症の3分類	1/6	2	WEB
ヘルパー打ち合わせ	1/6	1	WEB
認知症ケアの専門性を理解する	1/6	1	WEB
対人トラブルの心理学	1/6	1	WEB
チームで取り組むという事の意味	1/7	1	WEB
介護の基本	1/8	1	WEB
床ずれ防止用具	1/9	1	WEB
インフルエンザ・ノロウイルス対応	1/10	1	WEB
15分フォローアップ研修	1/10	2	WEB
15分フォローアップ研修	1/11	3	WEB
個人情報の取り扱い	1/12	1	WEB
15分フォローアップ研修	1/12	1	WEB
30分研修	1/12	2	WEB
超高齢社会における課題	1/13	1	WEB
15分フォローアップ研修	1/13	3	WEB
医療から介護へその1 新しい評価軸を求めて	1/14	1	WEB
ヘルパー理事会	1/14	1	WEB
15分フォローアップ研修	1/14	1	WEB
15分フォローアップ研修	1/15	1	WEB
ことばの影響	1/18	1	WEB
15分フォローアップ研修	1/18	1	WEB
摂食嚥下の基本	1/19	1	WEB
15分フォローアップ研修	1/19	1	WEB
介護支援専門員現場実習説明会	1/20	1	WEB
15分フォローアップ研修	1/20	1	WEB
動画研修	1/20	1	WEB
高齢者の心身の特徴	1/22	1	WEB
15分フォローアップ研修	1/22	1	WEB

15分フォローアップ研修	1/24	2	WEB
身体的拘束適正化委員会動画を視聴する	1/25	1	WEB
15分フォローアップ研修	1/25	1	WEB
動画研修	1/26	1	WEB
15分フォローアップ研修	1/28	1	WEB
ことばの影響	2/1	1	WEB
15分フォローアップ研修	2/1	3	WEB
報告の仕方	2/2	1	WEB
老施協打ち合わせ	2/2	1	WEB
15分フォローアップ研修	2/2	2	WEB
介護現場の衛生管理	2/3	1	WEB
マイナビ 打合せ	2/3	1	WEB
身体拘束を行ってはいけない理由	2/3	1	WEB
動画研修	2/4	1	WEB
認知症介護実践リーダー研修	2/4	1	WEB
高齢者の病気の特徴	2/5	1	WEB
不適切ケアを考える	2/6	1	WEB
誤飲時の対応	2/7	1	WEB
15分フォローアップ研修	2/7	1	WEB
共済会実務研修	2/8	1	WEB
15分フォローアップ研修	2/8	1	WEB
リスクマネジメントセミナー	2/9	2	WEB
姿勢ケアの基本的な考え方	2/9	1	WEB
居宅勉強会	2/9	3	WEB
立ち上がりを理解する	2/10	1	WEB
対人トラブルの心理学	2/10	2	WEB
15分フォローアップ研修	2/11	1	WEB
医療から介護へその1	2/12	1	WEB
食と健康フォーラム	2/14	2	WEB
脳卒中の主な障害	2/14	2	WEB
変化を嫌う職員の特性を理解する	2/16	1	WEB
30分研修	2/16	2	WEB
ヘルパー管理者意見交換会	2/16	1	WEB
摂食嚥下の基本	2/17	1	WEB
解剖学で座位を考える	2/21	2	WEB
15分フォローアップ研修	2/22	1	WEB
15分フォローアップ研修	2/23	1	WEB
不適切ケアを考える	2/24	1	WEB
異常の早期発見のための観察の視点	2/24	2	WEB
認知症の3分類	2/25	2	WEB
高齢者の心身の特徴	2/25	2	WEB
主任CM研修	2/27	1	WEB
言葉の影響	2/27	2	WEB
腰痛予防対策と腰を痛めない介助法	3/2	1	WEB
ノーリフトケアコーディネーター養成講座学習	3/3	1	WEB
姿勢ケアの基本的な考え方	3/4	1	WEB
主任介護支援専門員研修	3/6	1	WEB
介護の基本	3/7	1	WEB
社会人としての接遇・マナー	3/8	1	WEB

「痛み」への対応	3/9	1	WEB
看取りケアの基本	3/9	1	WEB
打ち合わせ	3/9	1	WEB
ノーリフトケアコーディネーター養成講座研修	3/10	1	WEB
高齢者の心身の特徴	3/11	1	WEB
バイステックの7原則	3/11	1	WEB
高齢者の転倒予防	3/12	1	WEB
社会人としての接遇・マナー	3/13	1	WEB
床ずれ防止用具	3/13	1	WEB
腰痛予防対策と腰を痛めない介助法	3/14	1	WEB
床ずれ防止用具	3/15	1	WEB
医療から介護へその1	3/17	1	WEB
介護職員の医療外行為	3/19	1	WEB
安全の決め手となるコミュニケーションと確認	3/21	1	WEB
言い方を変えるだけで後輩が育つ	3/23	2	WEB
ノーリフトケアコーディネーター養成講座研修	3/23	1	WEB
褥瘡発生のメカニズムとズレについて	3/24	1	WEB
床ずれ防止用具	3/25	1	WEB
認知症ケアの専門性を理解する	3/28	2	WEB
認知症ケアの専門性を理解する	3/30	2	WEB

471回 588名

延べ527回 672名

園 内 研 修

目 標： 職員の資質の向上を目指し、サービス業としての意識改革を図る

大木歯科医院の協力のもと定期的に園内研修を実施できた。また、職員による勉強会の機会も昨年から比べて格段に増えてきた。今後も職員の自己研鑽の為にも内容を深め、継続していきたい。

(1) 内部研修会

研 修 名	実施日	参加人数	講師又は報告者
新任・中途採用者の研修	4/8	約5名	鈴木施設長 加藤事務長 古川統括責任者
口腔ケア研修	4/23	約5名	大木歯科医院 歯科衛生士
口腔ケア研修	5/28	約5名	大木歯科医院 歯科衛生士
口腔ケア指導研修	6/18	約5名	大木歯科医院 歯科衛生士
口腔ケア指導研修	7/30	4名	大木歯科医院 歯科衛生士
口腔ケア指導研修	9/24	約5名	大木歯科医院 歯科衛生士
口腔ケア指導研修	10/22	約5名	大木歯科医院 歯科衛生士
安全運転講習	10/29	20名	(株)リンク 黒川氏
緊急時の対応について	11/18	8名	木下看護主任
手話講座	11/26	9名	名古屋護士
口腔ケア指導研修	11/19	約5名	大木歯科医院 歯科衛生士
口腔ケア指導研修	12/17	約5名	大木歯科医院 歯科衛生士
口腔ケア指導研修	1/5	約5名	大木歯科医院 歯科衛生士
高齢者虐待に関する研修	1/27	7名	北野介護長
口腔ケア指導研修	1/19	約5名	大木歯科医院 歯科衛生士
認知症及び認知症ケアについて	2/17	5名	船越護士
感染症予防対策について	3/8	7名	木下看護主任
褥瘡の原因と予防方法について	3/8	4名	岡本 介護リーダー
口腔ケア指導研修	3/9	約5名	大木歯科医院 歯科衛生士
口腔ケア指導研修	3/23	約5名	大木歯科医院 歯科衛生士

20回延べ 124 人

安全衛生

1. 防災対策振り返り

定期の防災訓練をはじめ、新人職員の防災教育、BCP(コロナウイルス感染症対策を含む)は、防火管理者を中心に取り組むことができた。

課題

BCP(事業継続計画書)を各事業所で見直しを図り、職員に各事業所の防災対策委員から周知を図るようにする。

消防・設備機器メンテナンス実施内容

① 定期実施

- 消防訓練(総合訓練2回 部分訓練9回)
- 浄化槽点検(大栄管清土木1回/月)・電気設備機器保守点検(日本テクノ1回/2ヶ月)
- エレベーター点検(SEC EV1回/2ヶ月)・自主建築検査(防火管理者1回/月)
- 厨房消毒(ダスキンエスプリ1回/偶数月)

②年1回実施

- 水質検査(三重環境事業団)・受水槽清掃(東産業)・特殊建築物設備等法定検査(藤川設計)

② 業務委託契約に基づいた保守点検

月	実施内容(消防訓練・設備)	
4月	防災設備機器点検(北勢防災) 新人職員防災教育	洗濯機・乾燥機保守点検(ビクター商事)
5月	特養消防訓練(避難誘導)	空調機保守点検(トーエネック)
6月	GH消防訓練(避難誘導)	ワックス掛け(ダスキン)
7月		
8月		
9月	法人消防訓練(通報) 法人総合消防訓練(夜間) 消防設備法定点検	浄化槽法定点検(三重環境事業団)
10月	水害時避難訓練	洗濯機・乾燥機保守点検(ビクター商事) 浄化槽汚泥引き抜き(快晴興業)
11月	GH消防訓練(通報)	電気設備機器漏電検査(日本テクノ) ワックス掛け・空調機換気扇清掃(ダスキン)
12月		ピット汲み取り(大栄管清土木)
1月	法人消防訓練(通報)	受水槽・高架水槽清掃点検(東産業)
2月	特養消防訓練(通報・避難誘導)	水質検査(三重環境事業団)
3月	法人総合消防訓練・消防設備法定点検	

2. 施設整備及び修繕等の実施内容

ボイラーからガスへの給湯設備の更新工事

3. 職員・職場 安全衛生

笑顔の多いストレスフリーな職場、怪我を防止し、労災の無い職場づくり。誰に対しても優しい職員を増やそう。嫌な思いをさせない職場にしようを目標に、「働きやすい職場を目指すために何ができるか」事業所を超えて話し合う場であることを安全衛生委員として一人一人が自覚をし、非常に前向きに認識し、関連な話し合いと危険箇所の撤廃、有効な対策を発信することができた。

実施内容

1. 安全衛生委員会の開催 毎月1回 第二木曜 16:00～16:30～ 全12回開催

職員の健康維持と増進、労働安全、労災対策を目的として開催した。

労働災害についてのリスクアセスメントを実施し、再発防止対策を労働局に報告した。

2. 労働環境整備

職場環境別チェック表を使用したチェックを数か月に1回実施し、修繕し安全確保に努めた。

男子更衣室のエアコンの要望を幹部会議に提言し、改修工事に至り新たに設置することができた。

3. 交通安全対策

交通事故報告件数

H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
5件	5件	5件	3件	4件	6件	6件	7件	9件	9件

交通事故は物損事故が10割を占める。職員及び利用者が受傷する事故は発生していない。

4. 腰痛対策:6月、12月に問診票による腰痛検査実施(6/23・12/22)

腰痛あり 6月検査 54.7%、同月前年比 5.1%減。 12月検査 58.2%、同月前年比 8%増。

希望者には腰痛予防ベルトを貸与し予防策の一環とすると共に、腰痛予防体操の実行を推奨した。

腰痛予防にスライディングシート・ボードの導入は進んでおり、腰痛対策としての意識は向上している。

5. メンタルヘルス対策・ストレスチェックの実施 (6/14～6/30)

ストレスチェックの基本方針に則り、メンタルヘルスチェックを6月に実施し、99名が受診した。

高ストレス者 9名 割合14.3%。昨年度より3.3%減少している。ストレス要因は身体的負担と質的負担、職場環境が高い。産業医との面談指導対象者はいない。面談指導希望者もいなかった。

6. アンケート・調査

働きやすい職場づくりを推進するため、職員の考えや現状理解につなげる調査を行った。

快適職場調査(5/14～5/24) 正規職員対象 62名に快適職場調査を実施。

7. 職員健康診断・予防接種

年2回、6/23、12/22に定期職員健康診断を実施。二次検査を要する職員は26名、再検査結果の提出を求めている。

インフルエンザ予防接種の実施 11月-12月。

新型コロナウイルス予防ワクチン接種第1回目 6/7～実施、第2回目 6/28～実施、

第3回目 1/31～実施

8. 有給休暇取得促進

働き方改革推進法による計画有休5日の取得もあり、休暇は取りやすくなっている。快適職場調査結果にも表されてきた。取得率70%を目標としたが、56.4%に留まり、昨年より4%上昇少した。

9. 職員の休業・休職

産前産後育児休業取得者1名、子どもの看護休暇の取得者4名、介護休業取得者1名。

育児・介護等に関する休暇・休業の相互理解が進み、浸透してきた。優秀な人材が離職せず、制度を利用しながら仕事と家庭の両立支援ができる事業所としてさらに促進を図っていく。

10. 一般事業主行動計画・次世代育成支援対策の取り組み

次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の取り組み。

ノー残業デーの実施・・・特養年17回計画、3回(7/20 11/16 3/22)達成。

訪問介護17回計画、2回(12/20 12/27)達成。

在宅訪問介護以外年17回計画、3回(11/17 3/16 3/23)達成

11. 労働災害

労働災害件数(疑い含まず)

H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
2件	2件	2件	1件	0件	0件	1件	1件	1件	1件

転倒事故の労災が1件発生した。労災は委員会で検討し、ポスターの作成掲示等の再発防止に努めている。

今後の課題

1. 安全衛生委員会

産業医へ定期的に又は必要時に報告相談をし、意見やアドバイスを得ているが、労働安全衛生をさらに活性化するため、産業医との連携を強化する。

安全衛生委員会で話し合ったことを全職員が理解し、職員自身が実行する自覚も必要である。そのために安全衛生委員会の存在感を高め、発信力の強化をしていきたい。

2. 労働環境

腰痛が発生しやすい職場であることの意識は向上してきたが、さらに理解を深め、介護機器の導入や自己防衛策の実行と定着をさせる必要があり、介護機器の使用に対する意識改革と導入に至る丁寧な説明を早期に行い、職員の腰痛予防対策を強化する。

ストレス要因の多い職務、職場であることの認識を深めて、ストレス回避、発散できる環境の設置やセルフチェック、ラインによるケアの拡大拡充を行う必要がある。

定期的な見回りを強化し、危険箇所の発見や5S活動、5T管理の推進を行い、安全な職場を継続する。

委員会活動

今年度は委員長会議が行えず。次年度は誰が招集し開催するのかを明確にする必要がある。出席しにくい事業所もありメンバーの選定にも配慮が必要。委員長、副委員長は次年度もほぼ同じとなっているので一層中身の濃い委員会活動ができるものにしていく。

1. リスクマネジメント委員会

今年度は安全対策担当者の研修を受講し安全対策委員会として委員会活動を行えるよう準備期間としての活動も行えた。事業所ごとに事故報告に対するの対策、改善策を考えて頂けるようになった。ヒヤリハットの書式変更を行い分かりやすくしたが、報告件数は少なかった。事故報告書の提出は出来るようになってきたものの、記録には残せても記憶に残すことが難しく、次年度の課題として残った。

2. 身体拘束廃止委員会

身体拘束の正しい知識を都度学習してきた。今自分のいる職場で不適切な行為はないか、報告してきた。「虐待の芽チェック」「セルフチェック」を入所施設系でアンケート調査実施した。虐待に対する職員の共通認識がもてたが、チェックシートの見直しが必要であると考え、委員で修正した。訪問系、通所系も準備し、スピーチロック（言葉による拘束）は心理的虐待であることを認識し、お互い見て見ぬふりしない取り組みを次年度行っていく。

3. サービス向上委員会

生活の質の向上を目標にして「接遇」を中心に活動を行った。「私たちの誓い」を朝礼で唱和し、気持ちの良い挨拶を行うことで働きやすい職場となるため、旗振り役としての活動を展開した。笑顔、言葉遣い、接遇に関するチェックシートを用いてマイスター表彰をした。接遇サービスの意識を高めることができた。日々の解決すべき課題はあるが、職員個々、また法人全体の意識レベルを高めるため、継続した取り組みを行っていききたい。

4. 感染対策委員会

本年度も、コロナウィルス感染症対策を中心とした活動を行った。「1ケア1手洗い」の徹底を継続する為に、特養全職員に手指消毒のための携帯アルコール消毒スプレーを配布。1月「感染予防対策強化月間」を設け感染拡大予防の啓発活動として、換気や環境と手指の消毒、密の回避などを実行出来ているかの確認を行った。また、入所者様より感染者が発生した時に、感染拡大を最小限にする行動・判断が迅速に行えることを目的として、感染者発生ヒヤリハットを想定したシュミレーションを行い、また個人防護具の着脱方法の実演を行った。「力を合わせてコロナゼロ」を目指し継続して活動を行っていく。

5. 広報委員会

ホームページの随時更新やトップ動画の更新。今年度も昨年に続き、年2回の広報誌の発行。法人・事業所のPRとして、役立てた。本館に職員の紹介写真を掲示し、来園される方に見える化を試みた。全事業所からのホームページ記事掲載ができなかった、年度途中で委員会メンバーの欠員が出て補充が出来なかった、日常業務の片手間で十分な活動時間が作れなかった等、課題はあ

たが、年度を通し良い取り組みができた。

次年度への課題は、全事業所からのホームページ記事掲載。更新の定期化。

6. 研修委員会

委員メンバーで事業所ごとに担当を決め、一人ひとりが動画閲覧研修を月1回以上実施する形で研修を行った。「1回の時間が短いのでちょっとした時間に受けられる」「様々なタイトルがあり、たくさん受けられる」との声があり、自分に合った研修を選択することによりスキルアップに繋がった。交通安全研修、多くの職員が参加し自分の運転を見直す良い機会となり、手話研修は、利用者とのコミュニケーション力を高めることが出来た。来年度も個々のスキルアップを目指し、取り組んでいきたい。

特別養護老人ホーム

振り返り

今年度の目標であった「よりそう～気持ち～」コロナウイルスの影響で、園内行事の大幅な縮小と家族様との面会の制限が続く中、刺激・楽しみが減り、家族様と入所者様には大きな負担となったことと考えられ、今年度目標であった「よりそう～気持ち～」を意識し支援に取り組んだ。

特に力をそそいだ内容として、施設での看取りで最期を迎えられた入所者様の件数が10件であり、多職種の連携で入所者様の体調の変化にいち早く気付くことに努め、家族様へ連絡をし、制限のある中でも家族様との面会を行って頂く手配をさせて頂いた。家族様、入所者様双方に少しでも悔いの残らないよう、想いに「よりそう」ことに努めた。また、入所者様には苦痛の緩和、不安の緩和となるよう寄り添い支援を行った。

入所者様へ安全・安心の支援

- 1 移乗動作をスムーズで安全・安心に行えるよう、福祉用具である、スライディングボードとスライディングシートを活用。入所者様、職員共に負担の軽減になるため積極的に活用できた。
- 2 インカムの使用により、緊急時連絡や人員の補足など職員応援体制の連絡、また、現場を離れることなく業務連絡を行うなどに活用出来ている。
それにより移乗介助時、安全を考え2人介助で行う、また事故防止を目的として見守り体制の徹底。今後もさらに安全・安心を考えた支援を継続していく。

入所者様の健康管理のための支援

- 1 水分補給の徹底をはかるため、定時に水分補給のお知らせを館内アナウンスで行った。結果、水分補給は定着した。アナウンスは終了したが、水分補給の継続がされており、今年度はバルーンカテーテルを挿入されている入所者様の尿路感染の減少が著明だった。
- 2 コロナの影響により、歯科衛生士による訪問指導が受けられない月もあった。

人材育成

- 1 新入職員への育成として、エルダー制、メンター制を試みたが人員の影響で取りやめとなった。しかし、リフレクションシートを活用し、目標の設定やそれに対する取り組みなど、面談を重ね指導にあたった。来年度はエルダー制を確実に行為新任職員を1名の職員に固定して付きっきりで指導を行う。
今後も人材育成に関しては大きな課題であり、職員の定着に繋がられるような人材育成が必要である。

コロナ禍での家族様と入所者様への支援

- 1 家族様との関りとしてオンライン面会を行った。
- 2 入所者様の様子の変化などみられた時には、家族様への報告を行った。

今後の課題

多職種間での連携が円滑ではなく、情報の共有が出来ていないことがあった。来年度は多職種間で会を開催し、連携の仕方や利用者情報の共有について随時検討していく。

3. 入所待機者の状況

(1) 入所待機者数

申込者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
申込者数	8	5	4	1	8	3	5	8	5	1	1	10
待機者数(月始)	70	70	68	65	68	68	51	57	57	65	69	64
待機者数(月末)	70	68	65	68	68	51	57	57	65	69	64	70

※8月に入所待機者宛に状況確認調査を実施。

(2) 入所申込者の状況

(令和 3. 3. 31 現在)

	年 齢 別					介 護 度 別			
	65歳未満	65～79歳	80～89歳	90歳以上	合計	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男	1	15	8	5	29	10	14	5	29
女	0	9	14	7	30	13	11	6	30

(3) 入所申込者の居住状況

	自宅	老人保健施設	病院	グループホーム	養護老人ホーム	その他の施設	合計
男	17	0	8	0	0	4	29
女	16	0	4	5	0	5	30

4. 入所者の状況

(1) 入退所状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	5	3	1	3	4	1	3	4	3	1	3	4	35
退所者数	4	2	4	2	3	3	3	2	5	3	2	2	35
入所者数 (月末)	78	79	76	77	78	76	76	78	76	74	75	77	

(2) 入所前の居住状況

	自宅	老健施設	病院等	グループホーム	養護老人	その他	合計
男	12	1	1	0	0	0	14
女	15	0	2	3	0	1	21
合計	27	1	3	3	0	1	35

(3) 退所者の退所理由とその原因

	死 亡		長期入院	呼吸器系疾患	循環器系疾患	消化器系疾患	腎泌尿器疾患	老衰	不明	他施設入所
	施設	病院								
男	5	1	3	0	0	0	1	4	0	0
女	26	5	0	1	2	0	0	26	0	0
合計	31	6	3	1	2	0	1	31	0	0

(4) 入所者の年齢

年齢	年 齢 別					平均年齢
	65歳未満	65歳～69歳	70歳～79歳	80歳～89歳	90歳～	
男	0	1	12	7	1	
女	0	2	15	23	12	82.5

(5) 出身地別

	出 身 地 別							
	市町村	鈴鹿市	亀山市	四日市市	津市	菰野町	いなべ市	名古屋市
男	17	0	0	0	0	0	0	0
女	57	1	1	0	0	0	0	1

(6) 入所者の要介護度別

介護度	1	2	3	4	5	計
男	0	2	2	10	6	20
女	3	1	15	18	20	57

(7) 在園期間

年数	1年未満	1～2年	3～5年	6～10年	11年以上
男	1	4	5	3	2
女	13	15	21	10	3

(8) 日常生活自立度

ランク	J	A1	A2	B1	B2	C1	C2
男	0	1	4	9	6	4	3
女	0	6	14	16	10	3	1

(9) 認知症高齢者自立度

ランク	自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	V
男	0	2	0	7	12	3	5	
女	0	3	5	10	18	5	7	

5. 実施した主な行事

月	内容	月	内容
4月	・誕生会 ・桜見	10月	・誕生会 ・
5月	・誕生会	11月	・誕生会
6月	・かき氷 ・クリームソーダ	12月	・誕生会
7月	・クリームソーダ ・誕生会	1月	・新年のあいさつ ・誕生会
8月	・かき氷 ・誕生会	2月	・節分豆まき ・誕生会
9月	・彼岸法要 ・誕生会	3月	・彼岸法要 ・誕生会

6. 実習生の受け入れ

鈴鹿オフィスワーク介護実習Ⅰ : 11月9日～12月3日 2名
 鈴鹿オフィスワーク介護実習Ⅱ : 6月30日～8月6日 2名
 高田短期大学介護実習Ⅲ : 8月31日～9月30日 2名
 ※2月の実習生の受け入れはコロナウイルス蔓延のため中止となった。

医務室

1、看護業務

※病院受診

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
高木病院	28	30	31	12	5	23	16	22	28	28	10	7	240
腎クリニック	0	2	4	2	2	5	2	2	2	2	2	2	27
中央病院	2	3	3	7	0	5	2	8	5	6	7	7	55
回生病院	1	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	2	7
しま皮膚科	0	1	1	1	2	3	2	0	2	0	3	1	16
スマイル眼科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
膠原病	1	1	1	1	1	0	1	0	1	0	1	0	8
尾池整形	4	7	3	3	3	1	1	6	5	3	4	6	46
厚生病院	0	1	1	0	1	0	1	2	0	1	0	1	8
大木歯科	0	0	0	0	0	0	0	6	1	3	1	0	11
その他	1	2	2	0	0	0	0	1	1	1	2	3	13
計	37	48	47	26	14	38	27	47	45	45	30	29	433

※年間総受診件数が前年度は 480 件で減少。

※中央病院の年間受診件数が前年度は 29 件であり、増加みられる。内容としては、入所以前からの持病（悪性腫瘍、心疾患）などの通院の継続、骨折にて手術後経過観察、腫瘍の精査や治療など、専門的な検査や加療を要する件数が増加している。

※入院対応・・・22 件

軽快退院し入所継続	13 件
入院の継続にて退所	3 件
死亡	6 件

※内容としては腸閉塞、悪性腫瘍手術、尿管結石からの腎炎、胸水の貯留など、処置や治療を要し軽快後、施設での入所継続の件数が多くあった。

2、健康管理

※4 月 血液検査（糖尿病 12 名、貧血治療者 1 名、血液疾患観察者 1 名）・・・14 名施行

※9 月 胸部レントゲン撮影・・・入所者様全員

要経過観察 23 名、要精密検査 7 名（精密検査結果は持病による肺疾患 1 名、心不全 3 名
異常なし 2 名）

※11 月 健康診断（血液検査）・・・入所者様全員

※11 月～12 月 インフルエンザ予防接種・・・入所者様 79 名、職員 110 名

3、褥瘡へのとりくみ

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
車椅子時ズレ圧迫	7	6	5	7	5	6	4	4	6	4	2	4	60
臥床時の圧迫	1	6	2	1	2	1	4	5	4	2	6	7	41
その他	1	1	0	1	0	0	0	0	2	3	3	2	13
発生数	9	13	7	9	7	7	8	9	12	9	11	13	114

※褥瘡への取り組み

- 1) 車椅子を本人様の身体や姿勢に合ったものへの変更と座面の工夫、皮膚状態のチェック、また栄養面からのアプローチなど多種職で取り組んでいる。
- 2) ベッドのマットについても、本人様の身体状況や姿勢によりあったものを選択している。
- 3) 褥瘡に関して研修委員会委員長により施設内研修を3月に開催。

4、感染者罹患者

※入所者様での罹患者はなし

5、感染予防対策（コロナウイルス）

※予防接種・1回目、2回目接種：6月7日から7月17までで、入所者様、職員の接種を終えた。

3回目摂取：1月31日から2月16日までで、入所者様、職員の接種を終えた。

(接種時期に違いがあるため、都度対応し継続中)

- ※感染対策・
- 1) 施設全体で朝の一斉掃除（消毒）、換気の継続と、食事前後のテーブルや手指の消毒、適宜の換気は継続し行っている。
 - 2) 職員の健康チェックとして出勤時の検温・症状観察を記録の継続。
 - 3) コロナ抗原検査の活用。
 - 4) 感染拡大予防のための施設内研修、発生時対応のシュミレーションを行った。

6、生活機能向上訓練

※身体機能または日常生活機能の低下進行予防・維持を目的として、毎週水曜日に玉田医院の理学療法士に来園頂き、日常生活上の留意点、訓練の具体的方法などに関して助言を頂いている。また、解剖学的説明を加え説明していただき、機能訓練指導員の知識の向上にも繋がっている。

特に立位動作・歩行機能の低下進行予防、維持に関して重点的に訓練を行っており、入所者様の生活の中で自力歩行の維持、トイレ使用の維持には成果を認めている。

また、介護職員からも積極的に歩行の維持、トイレ使用の維持への支援が行われている。

※課題として昨年度に引き続き、看護職員・介護職員との連携をとり日常生活の中で行うことが出来る訓練（日常生活動作低下進行予防・維持、認知症進行予防など）を多職種連携で実行、定着を目指していく。

7、今後の課題

※安心、安全に入所生活を継続していただくために、多種職と連携をこれまで以上にとり、身体異常の早期発見と、疾病予防に努めていく。また、重度化防止のため、嘱託病院との連携に努めていく。

給食関係

(1) 工夫した食事提供の実施

- ※ターミナル時の食事提供をご家族と他職種で検討。最期まで楽しんでいただける工夫を行った。
- ※新型コロナウイルス禍であったが、おやつを選択など少しでも利用者に喜ばれる食事提供を行った。
- ※季節を感じられる献立作りに努めた。
- ※給食会議で他職種の方から食事の色々なご意見をいただき、利用者様に喜ばれる食事提供を実施。
- ※食事関係のミニ知識など、食事内容への興味を高めるために、こまめに掲示を行った。

行事食実施状況

行事名	内容	実施日	回数	対象者
端午の節句	節句料理 (昼食)	5月5日	1回	特養・短期・通所
土用丑の日	うなぎ丼 (昼食)	7月28日	1回	特養・短期・通所
鰻を楽しむ	うなぎちらし寿司 (昼食) う巻き卵 (昼食)	8月11日 8月26日	1回	特養・短期・通所 特養・短期
敬老週間	松華堂弁当 (昼食)	9月16・17・18日	3回	通所
敬老の日	お祝い食 (昼食)	9月20日	1回	特養・短期・通所
長寿を祝う会	にぎり寿司 (昼食)	11月2日	1回	特養・短期
クリスマス	クリスマスケーキ (おやつ)	12月25日	1回	特養・短期
大晦日	年越しそば (夕食)	12月31日	1回	特養・短期・GH
正月	雑煮・おせち料理	1月1日雑煮 1月1～2日	2回	特養・短期・GH
新年のお祝い膳	松華堂弁当 (昼食)	1月4～6日	3回	通所
七草粥	七草粥 (朝食)	1月7日	1回	特養・短期
小正月	小豆粥 (朝食)	1月15日	1回	特養・短期
節分	恵方巻き (昼食)	2月3日	1回	特養・短期・通所
ひな祭り	にぎり寿司 (昼食)	3月3日	1回	特養・短期・通所
彼岸法要	おまんじゅう (おやつ)	3月23日	1回	特養・短期
海の幸を楽しむ	海鮮どんぶり (昼食)	3月29日	1回	通所
誕生会	誕生日メニュー (昼食)	毎月	12回	特養・短期

(2) 栄養ケア・マネジメントの実施

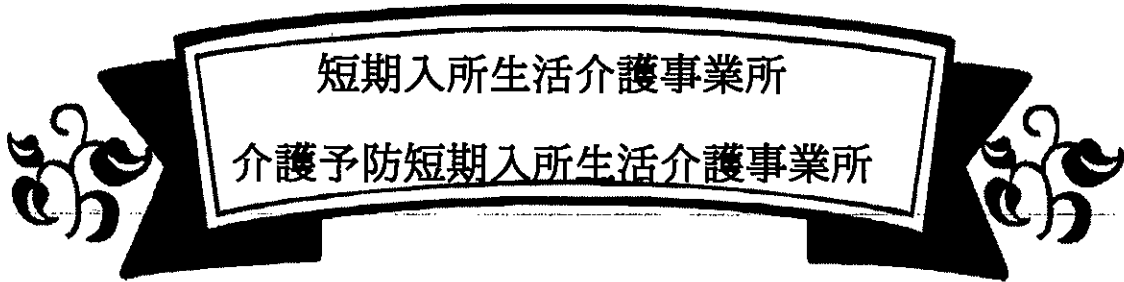
- ※ミールラウンド (3回以上/週) を行い、利用者の食行動・意欲・姿勢など他職種と連携をとり、丁寧な栄養ケアマネジメントの工夫を行った。
- ※食事や水分量だけでなく、姿勢や飲み込み具合など、個人の状態をみて介助食器や栄養食の検討を行った。
- ※スクリーニング・アセスメントにより、中・高リスク者が増えたときは、その原因を検討、他職種とも相談、食事提供や栄養食など改善に向けての工夫を実施。
- ※個人の状態にあった栄養補助食品の使用を他職種と検討することで状態の悪化防止・改善に努めた。

栄養ケア・マネジメント（低栄養状態のリスク状況）

	低リスク者(人)	中リスク者(人)	高リスク者(人)	退所者(人)	新入所者(人)
4月	42	28	13	4	5
5月	40	31	11	2	3
6月	38	32	11	4	1
7月	33	35	12	2	3
8月	34	37	11	3	4
9月	32	34	14	3	1
10月	40	31	9	3	3
11月	44	26	11	2	4
12月	46	24	12	5	3
1月	42	25	11	3	1
2月	40	27	11	2	3
3月	36	32	12	2	3
計	467	362	138	35	34

（3）今後の課題

- ・ 普段の食事から嚥下調整食分類表を指標とした、調整食の提供を行う。



定員10名 特養併設型空床型

本年度目標

誠実な対応で利用者サービスに沿った福祉サービスの実施

ご利用者様の要望に応じて、お部屋の調整等することで満足いただけるサービスを実施した

経営基盤の強化

ヒヤリハットや事故報告に対して迅速に対応することで、状況の把握再発を防止し安全で快適な生活を送っていただけるように支援を行った。

送迎車の消毒・換気・来園時の検温・手指消毒を徹底し感染対策を講じることで感染症をゼロにすることができ、結果として稼働率向上につながった。

地域包括ケアシステムの構築

緊急時の対応、措置利用の利用者の受け入れ等を迅速に行い、安心して生活できる環境を整えた。コロナウイルスの影響で書面での情報共有が基本であったが必要時は電話等で共有を図った。

人材育成

利用者様との距離感が近くなり過ぎて言葉遣いが馴れ馴れしくなることがあり、丁寧な言葉遣いを意識しなければならない。

施設内外の研修を今後継続して行っていく。

労働環境の向上

有給等の取得推進を図った。

タブレットのお知らせ一覧、ノート等で福利厚生の情報共有を図った。

今後の課題

新規の利用者の初回利用の報告書を作り、家族様やケアマネージャーに情報発信することで施設での利用者様の状況を知ることができ、今後の利用等につなげていきたい。

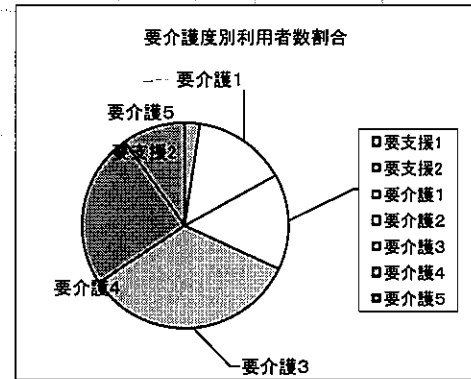
記録の書き方、利用報告書の書き方を職員間で研修を行い、これまで以上に具体的に報告できるようにする。

実績をケアマネージャーに月初めに届けるとともに利用者様の情報を文章で報告していく。

特養併設(空床利用) 指定短期入所事業 定員 10 名

	受入 日数	1日当 たりの 利用者 数	利用者数										食事提供日数			送迎			初利 用者 受入 人数	空床利 用者数 日数
			人数 計	要介護度別					食数計	有	無	総送 迎数	迎	送						
				申出中	予 防2	予 防1	1	2							3	4	5			
4月	275	9.17	275		6		31	21	88	93	36	275	275	0	57	30	27	2	40	
5月	231	7.45	231		6		44	20	55	81	25	231	231	0	69	34	35	1	3	
6月	266	8.87	266		6		58	55	69	55	23	266	266	0	52	27	25	0	56	
7月	327	10.5	327		9		75	66	80	74	23	327	327	0	48	23	25	1	63	
8月	327	10.5	327		11		41	60	106	69	40	327	327	0	54	28	26	0	25	
9月	293	9.77	293		6		31	56	127	69	4	293	293	0	52	26	26	0	11	
10月	275	8.87	275		6		32	45	114	75	3	316	316	0	52	24	28	0	37	
11月	261	8.7	261		6		51	51	88	52	13	261	261	0	51	27	24	3	39	
12月	301	9.71	301		6		1	62	138	81	13	326	326	0	74	48	26	0	45	
1月	347	11.2	347		6		71	36	108	67	59	283	283	0	61	30	31	2	74	
2月	282	10.1	282		6		48	18	90	67	53	298	298	0	50	30	20	1	43	
3月	248	8	248		6		18	25	92	60	47	248	248		52	27	25	2	14	
合計	3433	9.405	3433	0	80	0	501	515	1155	843	339	3451	3451	0	672	354	318	12	450	

要介護度別実利用者数構成率	延べ利用者数	
要支援1	0%	0
要支援2	2%	80
要介護1	15%	501
要介護2	15%	515
要介護3	34%	1155
要介護4	25%	843
要介護5	10%	339
合計		3433



月	営業日	受入日	利用率	平均 要介護度	介護保険 利用料収入	滞在費 収入	食費 収入	全額自己負担 収入	前年度比
4月	300	275	92%	3.23	2,571,909	311,959	375,530	28,189	94.9%
5月	310	231	75%	3.02	2,174,071	268,823	305,272	4,000	65.3%
6月	300	266	89%	2.67	2,099,218	265,526	325,808	32,311	76.7%
7月	310	327	105%	2.62	3,160,514	412,860	518,740	74,679	108.5%
8月	310	327	105%	2.92	2,759,817	364,991	446,910	47,942	109.4%
9月	300	293	98%	2.80	2,574,785	343,283	409,950	67,319	91.8%
10月	310	275	89%	2.83	2,417,837	347,234	420,925	80,482	95.2%
11月	300	261	87%	2.64	2,287,126	305,615	371,870	60,646	85.4%
12月	310	301	97%	3.08	2,644,300	344,910	430,560	99,994	104.2%
1月	310	347	112%	2.97	2,993,321	372,517	469,755	50,481	124.9%
2月	280	282	101%	3.15	2,645,686	320,998	395,235	6,983	99.7%
3月	310	248	80%	3.30	2,385,865	290,681	349,665	4,328	63.5%
合計	3650	3433	94%	2.94	30,714,449	3,949,397	4,820,220	557,354	91.7%
平均	304.2	286.1	94%	2.94	2,559,537	329,116	401,685	46,446	93.3%

送迎範囲: 鈴鹿市、楠町内

特記事項:

通所介護事業所

介護予防・日常生活支援 総合事業所

1. 振り返り : 通所介護事業 定員35名

事業目標 職員満足度の向上＝利用者満足度の高いサービスの提供

今年度、機能訓練を行うことが定着し個別機能訓練加算を新たに取得。利用者様の在宅生活維持の為、それぞれに合った運動を計画、実施する事ができた。また、利用者様の意欲も向上し、出来る事も増え、利用者様同士が助け合う姿も見られ、事業所の活性化にも繋がった。

職員同士のコミュニケーションを増やし、互いを認め合い、尊敬する事を忘れず、チームとして動く事の大切さを伝え、職員の向上心を引き出すよう努めた。また、人材育成に力を注ぎ、指導ファイルを使用し育成担当者と毎日業務終了後に振り返りを行い、新任職員の定着に繋がった。

介護士は介護の専門知識を持ったサービス業である事を念頭に置き、利用者様に接するよう職員の接遇向上に取り組んできた。結果、利用者様アンケートで良い結果を得る事ができた。

<経営基盤の強化>

目標	結果
令和3年度介護報酬改定に沿った各種加算の取得。	新たに科学的介護推進体制加算、生活機能向上連携加算、個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱ、運動器機能向上加算を取得。
利用者のニーズに沿ったサービスの提供。	個別に手作業 手芸、折り紙、ビーズ等)や脳トレ・卓上ゲーム、園庭散歩、リハビリ運動等、空き時間に取り組んでいただいている。
利用者満足度の高いサービスを提供する。	アンケートを実施。概ね良い評価を頂けた。また、「良い評判を聞いたから」、という新規ご利用者様が増えた。

<地域包括システムの推進>

目標	結果
医療・介護・地域との情報共有・連携を図る。	バイタルリンクを使用し、不安定なご利用者様の情報共有を行った。同法人在宅部門との連携はラインワークスを使用し行った。
地域行事への参加、地域のニーズの掘り起こし。	地域への参加はコロナウイルス感染症の影響にて行えなかったが、デイサービス玄関にて作品展を実施。地域の方が訪問して下さった。

<人材育成>

目標	結果
職員のレベルにあった研修会への参加。	研修委員会主催の交通安全や手話研修、デイサービスでの園内研修(1回/月)、認知症実践者研修へ参加。
資格取得(社士・介福・CM)の推進。	受験するも良い結果には繋がらなかった。
育成担当者の育成の為、法人内外の研修に参加。	園外研修に参加。ズームでの参加も行った。

<労働環境の向上>

目標	結果
有給取得の推進。	以前に比べ取得できているが、職員によってムラがある。
ICTを活用した業務の見直し改善。	タブレットを使用し記録業務に関しては、効率化できている。インカムを使用し、入浴業務の効率化を図った。
職員満足度向上の為、働きやすい環境を作る。	職員の業務提案に関して、余程でない限り却下はせず、自らの力で行えるよう助言等を行いながら、やりがいを見つけられるよう図った。
ミーティング(1回/月)を実施。課題解決等の意見交換を行う。	業務の改善点や次月の目標等を一緒に考え発言を促すことで、当事者意識を高め業務に生かせるよう図った。

年間実績

- ・年間利用者数 9157 名 ・年間利用率 101.74 %
- ・1日平均利用者数 29.4 名(営業日311日)
- ・登録利用者平均介護度数 1.98(自立、要支援除く)
- ・介護度別比率 事業対象者: 1.7% 要支援: 14.2% 要介護1: 34.5% 要介護2: 26.2%
要介護3: 13.9% 要介護4: 6% 要介護5: 3.5%

表(1)

	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
平成 29 年度	14.1%	30.3%	25.7%	22.1%	5.2%	2.5%
平成 30 年度	15.1%	38.3%	19.3%	13.4%	10.6%	3.5%
平成 31 年度	9.2%	41.8%	17.7%	10.7%	11.86%	4.7%
令和 2 年度	18.6%	35.4%	19.1%	10.7%	12.4%	3.8%
令和 3 年度	15.9%	34.5%	26.2%	13.9%	6.0%	3.5%

表(2)

	年間利用者数	営業日	年間利用率	1日平均利用者数
平成 29 年度	5894	362	54	16.3
平成 30 年度	8122	362	90.2	26.2
平成 31 年度	9029	309	100.3	29.2
令和 2 年度	8636	311	95.9	27.7
令和 3 年度	9157	311	101.7	29.4

年間行事報告

4月	花見・草抜きゲーム・ 手繰り寄せゲーム・疾走ゲーム	10月	運動会・さんま漁ゲーム ハロウィンパーティー・栗拾いゲーム
5月	駄菓子バイキング・巨大オセロ カーリング・パス&シュート・しょうぶ湯	11月	作品展示会・どら焼きづくり 新聞釣りゲーム・ワンバンカップイン
6月	和菓子バイキング・紅白オセロ 紙コップすくい・満タンゲーム	12月	クリスマス会・プチ忘年会・ゆず湯 大根収穫祭・当たり探しゲーム
7月	ホットケーキづくり・ざるそば一丁 七夕音楽レク	1月	新春松花堂弁当・初詣 ぜんざいづくり・紅白オセロ
8月	夏祭り・ピコピコゴルフ 箱をぬけ！・テーブルカーリング	2月	節分行事・バレンタイン行事 コロコロ橋渡しゲーム
9月	敬老会・箱deドミノたおし シュートでビンゴ・新聞相撲	3月	ひなまつり行事・ロケット発射 お手玉のせゲーム・みかん風呂

<毎月行事> 誕生会・作品作り・俳句の会・音楽レク・ビューティーデー・散歩・カラオケ・ふろの日

2.今後の課題

利用者様がまた来たいと思える事業所作りを継続して行っていかなければならない。現状維持ではなく、常に向上心を持ち取り組めるよう、職員のモチベーション向上を図る必要がある。

職員の入れ替わりがあり、底上げが急務である。新たな生活相談員の育成も行う必要がある。

地域の拠点として、デイサービス解放デー等を検討し地域貢献できるような行事を行い、「地域にはくすのき園がある。」と、思ってもらえるような事業所を目指す必要がある。

訪問介護事業所 介護予防日常生活支援総合事業

振り返り

利用者のニーズに沿った支援を心がけて行うことができた。新規利用者の獲得についても営業を行い、実績につながった。利用者様の終了・新規契約が多い年であった。次年度職員の定着に向けて重点的に取り組む必要がある。4月から特定事業所加算Ⅱ取得のための準備をし、6月より算定することができた。ICT（ケアコラボ）導入によりペーパーレス化、情報共有に努めた。

経営基盤の強化

利用実績（令和3年度延べ人数）

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	88	84	92	122	86	80	53	54	51	54	62	95	921
要介護2	34	35	39	85	88	80	81	81	81	61	58	78	801
要介護3	18	20	21	17	24	20	19	22	20	49	47	26	303
要介護4	80	82	88	87	86	82	78	63	78	70	58	45	897
要介護5	30	30	30	62	62	60	62	49	62	62	56	42	607
要支援1	11	10	11	16	12	14	26	23	22	25	24	29	223
要支援2	28	22	28	37	41	33	28	26	25	26	26	29	349
総合	0	0	1	9	13	13	8	9	6	8	1	1	69
合計	289	283	310	435	412	382	355	327	345	355	332	345	4170

前年比 延べ 59 名減

登録利用者数 37名（前年比 7名増）

新規獲得利用者数 19名

地域包括ケアシステムの推進

地域・包括・鈴鹿市等と連携しながら、情報共有・発信をした。また、ヘルパー協議会を通じて、鈴鹿市内のヘルパー各事業所との意見交換、すずらん等との情報共有を図った。

人材育成

年間研修計画をたてて介護技術の質向上に努めた。職員の不安があったときは、1on1ミーティングを行うことで支援内容の確認、困りごとなど適宜対応することで職員のモチベーションの維持を図った。

在宅会議で情報共有を図り、職員会議を開催し課題解決を行った。

労働環境の向上

コロナウイルス感染症の濃厚接触者に該当した職員が在宅ワークを実施することができた。

ICT (ケアコラボ)導入により、ケース記録をスマートフォンで入力することが可能になり、施設に戻ってからの記録時間の短縮等につながった。

今後の課題等

1. チームワークができてなかったため情報共有することができなかった。
2. 人材育成・定着が急務である。退職者が多く、今後の収入を上げていくためにも職員の定着を図るとともに職場環境を整えていく必要がある。

居宅介護事業所

振り返り

「チームワークを大切に利用者ニーズに沿ったケアの充実を図る」の目標に対して、サービス提供責任者を中心に定期的な研修会及び会議での情報交換を行った。支援相談員との情報共有を図るとともに4月から特定事業所加算Ⅱ取得のための準備をし、6月より算定することができた。ICT（ケアコラボ）導入によりペーパーレス化、情報共有に努めた。

経営基盤の強化

令和3年度利用実績（延べ人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身体介護	17	14	17	21	29	30	37	35	46	34	13	10	303
家事援助	45	43	50	47	46	27	29	25	15	29	50	50	456
総合計	62	57	67	68	75	57	66	60	61	63	63	60	759

前年比 延べ84名増

登録者数7名（前年比3名増）

新規獲得利用者 8名

地域包括ケアシステムの推進

支援センター・鈴鹿市などと連携しながら、サービスの必要な利用者の支援、支援内容の見直しを図った。

人材育成

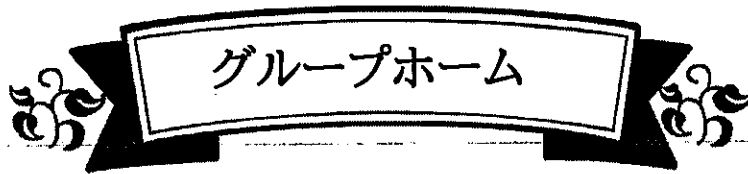
年間研修計画をたてて介護技術の質向上に努めた。職員の不安があったときは、1on1ミーティングを行うことで支援内容の確認、困りごとなど適宜対応することで職員のモチベーションの維持を図った。

労働環境の向上

コロナウイルス感染症の濃厚接触者に該当した職員が在宅ワークを実施することができた。

今後の課題等

1. チームワークができてなかったため情報共有することができなかった。
2. 人材育成・定着が急務である。退職者が多く、今後の収入を上げていくためにも職員の定着を図るとともに職場環境を整えていく必要がある。
3. 重度訪問介護などの資格等、専門的な知識を得るようにしていく必要がある。



振り返り

「日々の暮らしの中で、ご本人とご家族の繋がり、地域との繋がり、職員との繋がりにより、安心して笑顔で暮らしていただける支援サービスを行う」であった。
社会的な閉塞感を打破すべく、入居者と家族を繋ぐための創意工夫を重ねて取り組んだ。

1. 経営基盤の強化

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐことを常に念頭に置き、入居者の方が家族や知人、地域への自由な外出や面会制限の中で、笑顔で楽しい生活環境が提供できるよう取り組んだ。地域やボランティアとの交流などの行事の中止が相次いだ。花見や、周辺の散歩、花壇の整備や野菜作りなど、日中活動の充実のために創作活動やおやつ作りなどで、少しでもストレスをためない工夫を行った。年間稼働率はほぼ100%でひとりの入院者も出さず、入居者の入れ替わりが2名あったが、空き床日数も必要最小限であった。しかし、生活動作の低下や認知症状の重度化が進み、職員のより高度な医療的知識や認知症介護技術が必要となってきた。

2. 地域包括ケアシステムの推進

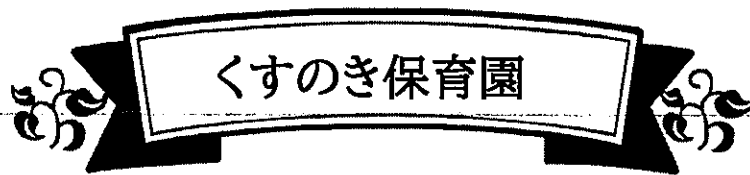
昨年、当法人内に地域包括支援センターが設置されたことにより、運営推進委員として鈴鹿地区広域連合介護保険課指導グループ職員にお願いすることとなった。参集での会議は1回しか開催できなかったが、報告書類の送付や『ご意見、ご要望アンケート』を通じて意図的に地域と関わりを持つようにし、また、三重県社会福祉協議会主催する外部評価を受審し公表することで、地域からの信頼度向上に努めた。

3. 人材育成

入居者の方一人一人の尊厳を尊重した認知症の個別のケアに取り組み、その対応に応じた接遇の在り方や介護技術の向上に取り組んだ。PDCAサイクルを意識し、利用者担当制を導入し、より質の高い個別ケアに力を入れた。そのため定期的な勉強会やWEB研修受講を積極的に行った。

4. 労働環境の向上

業務改善や人員配置、他事業所からの兼務体制を整いながら、効率の良い業務になるよう考え、経費削減や節約に努めた。職員間の伝達や連絡を細かく行い、透明性のある施設運営を考え、統一し把握できるよう引き続き努力していきたい。



【 保育理念 】

子ども一人一人を大切にし、子どもと共に成長し誰からも信頼される保育園作りを目指す。

【 保育方針 】

豊かな表現力を持った子どもに育てる。

【 保育目標 】

- ・ 基本的な生活習慣を身に付ける。
- ・ 明るく元気な子どもに育てる。
- ・ 情緒豊かな子どもに育てる。

1. 一年の振り返りと今後の課題

引き続き新型コロナウイルスの影響はありながらも、保護者参加の行事や保育参観等、子どもたちの園での姿を見てもらいたいという思いで、感染対策を講じた上で、可能な範囲内の保育を実施してきた。

8月には、園児の陽性者が発生したため、8/19～8/25が臨時休園となった。

また、三重県に緊急事態宣言が発令されたことに伴い、8/27～9/30が家庭保育のお願い期間となり、期間中は半数程度の登園児数となった。

来年度は園庭開放を事前予約制で再開するなど、感染対策を十分に行いながらの保育・行事を検討していきたい。

◎ 職員会議

月1回水曜日の18時より開催

園予定の確認や行事内容検討・職員間共有、日々の保育の課題の共有などを行った。

◎ 避難訓練

毎回、災害の想定を変えて毎月行った。(9月は防災訓練、11月は消防訓練を実施)

園舎屋上への避難など、毎回の積み重ねにより、子どもたちなりに理解し行動できるようになった。

◎ 特養・デイサービスとの交流

今年度も合同での行事实施は中止、デイサービスへの訪問も中止となったが、園児の製作物や行事の練習風景を収めたDVDをプレゼントするなどの交流を図った。

◎ 外部講師による各種指導

- ・ 剣道指導 … 新たに講師を迎え、5歳児を対象に行い、保育参観を行った。
- ・ 体育指導 … 3～5歳児を対象に行い、3歳児の保育参観を行った。

- ・歌唱指導 … 「歌唱」ではなく、リズム楽器を使用したリズム指導とし、4・5歳児を対象に行った。
- ・リトミック指導 … 2・3歳児を対象に行った。
- ・絵画指導 … 4・5歳児を対象に行った。
- ・英語指導 … 5歳児を対象に行い、保育参観を行った。

◎ その他

・臨床心理士巡回訪問

2か月に1回程度訪問してもらい、配慮の必要な子どもへの関わり方や保護者面談を行ってもらった。小学校や行政との連携、各種書類作成もしてもらい、職員の負担軽減にも繋がっている。

・箕田自治体との交流

箕田自治体（水土里会）より園児との交流の依頼があった。畑をお借り、芋の苗植えから収穫までお手伝いいただき、12月には収穫した芋を園庭で焼き芋を行った。

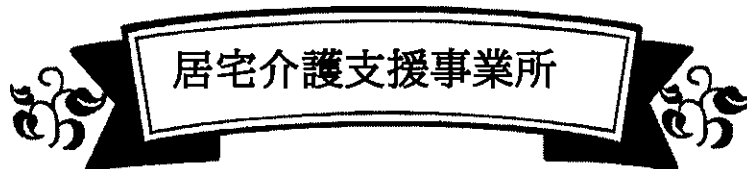
普段体験できない経験ができ、非常にいい機会となった。（令和4年度も継続して交流予定）

2. 入所児童数の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	8	11	11	11	11	11	12	12	12	12	12	12
1歳	24	25	25	25	26	26	26	26	26	27	27	27
2歳	30	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
3歳	22	22	22	22	22	21	21	21	21	21	21	21
4歳	26	26	25	25	26	27	27	27	27	27	27	27
5歳	28	28	28	28	28	29	29	29	29	29	29	29
合計	138	141	140	140	142	143	144	144	144	145	145	145

未満児（0～2歳児）の途中入園の問い合わせが多かったが、職員配置や配置面積基準の都合でお断りすることも多かった。

定員（150名）に満たなかったが、未満児の受け入れ数が多く、運営費・補助金収益に繋がった。



事業目標

協働意識をもったチーム力で利用者様の相談を総合的に受け止め多様なニーズに応える

職員全員で協働意識を高め利用者様や家族の意向を尊重し、個々のニーズに応じて質の高いサービスの提供に努めた。

1. 経営基盤の強化

- ・「ICTの活用」「事務員配置」により通減性の緩和が適用され、ケアマネジャー1人当たりの担当件数を増やすことができた。また、各種加算の取得率の向上に努めた。
- ・認定調査の委託件数週9件以上を目標としていたが、人員不足や新型コロナウイルス感染症の影響から目標を達成することができなかった。
- ・交通法規を遵守し交通事故ゼロを達成した。

【事業実績】

居宅介護報酬請求件数 2 5 7 7 件（前年比 2 2 件増） 認定調査 2 1 5 件（前年比 1 1 7 件減）

月	介護報酬	認定調査	月	介護報酬	認定調査
4月	210	35	10月	213	0
5月	211	40	11月	210	15
6月	213	30	12月	216	15
7月	220	24	1月	212	16
8月	221	31	2月	214	0
9月	219	0	3月	218	8
			合計	2577	214

☆介護報酬件数には介護予防件数も含む

2. 地域包括システムの推進

- ・地域包括支援センター主催の地域ケア会議や意見交換会、在宅医療・介護連携支援センター主催の研修会に参加して、医療・保健・福祉とのネットワークを構築し地域社会との繋がりを強化した。
- ・他法人の居宅介護支援事業所との勉強会を行い、ケアマネジャー同士の繋がりをもち情報交換等を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、予定していた介護予防教室に参加することができなかった。
- ・近隣の医療機関、サービス事業所との顔を見える関係づくりに努めネットワークの構築に努めた。

3. 人材育成

- ・1on1ミーティングの実施でコミュニケーションを図り、きめ細かなサポートでチームワークを強化した。
- ・年間研修計画に沿った研修会は新型コロナウイルス感染予防のため、ズームで行い自己研鑽に努めた。また接遇マナー向上のため、同法人内の事業所と勉強会を行った。

- ・事業所内勉強会を週1回開催し、情報共有と意見交換を行い知識やスキルの向上に努めた。
- ・必要に応じてスーパービジョンを行い信頼関係の構築で相談しやすい環境づくりに努めた。
- ・利用者様やご家族様に対し満足度調査を行い、より一層のサービス向上に努めた。

4. 労働条件の向上

- ・新型コロナウイルス感染症対策として、リモートワークを実施できる環境を整え有事の際に活用することができた。
- ・有給休暇の取得推進でワーク・ライフ・バランスの実現を図ることができた。
- ・ラインワークスの活用で情報共有を行い、リモートでの研修、会議への参加で新型コロナウイルス感染症予防を徹底し業務に取り組むことができた。

今後の課題

- ・BCP（事業継続計画）を策定し事業所内で周知を図り災害や感染症の発生時に備えた体制を整える。
- ・交通法規の遵守で交通事故ゼロを継続する。
- ・令和4年4月より2名のケアマネジャーが入職する為、1on1ミーティングや職場内コミュニケーションの継続で働きやすい職場づくりを強化し人材定着を図る。
- ・地域包括支援センターと連携し困難ケースも受け入れ、地域から信頼される事業所を目指す。
- ・外部研修へ積極的に参加しケアマネジャーとしての質の向上を図り自己研鑽を継続する。

鈴鹿第4地域包括支援センター

令和3年4月の開設より地域住民の方に啓発活動を行い、各関係機関と連携を図ってきた。住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるよう、医療・介護・福祉等に関わる幅広い関係機関、関係者の連携・調整を今後も推進していく。また日常的な地域活動及び地域ケア会議を通じて、担当圏域における高齢者の実情やニーズを把握していく。

1. 経営基盤の強化

事業実績 指定介護予防支援事業

月	委託	直営	月	委託	直営
4月	157	44	10月	166	48
5月	158	44	11月	167	45
6月	161	45	12月	160	46
7月	163	45	1月	156	49
8月	171	47	2月	157	41
9月	171	42	3月	160	42
			合計	1947	538

包括的支援事業

新規相談件数	295件／年
関係機関・地域の協議会等による会議の参加回数	25回／年
専門職向け会議の参加回数	62回／年
地域ケア会議の開催回数	3回／年
個別ケース会議の開催回数	2回／年
介護予防出前講座等の開催	4回／年
圏域内ケアマネ支援会議	3回／年
在宅医療を行う医療機関との連携	35件／年
認知症初期集中支援チーム員会議の出席	13回／年

2. 地域包括ケアシステムの推進

地域ケア会議を開催し、地域の方や関係機関と情報共有・意見交換を行った。

地域住民のワンストップ窓口として迅速に対応し、必要に応じて行政や各専門機関とのネットワークの構築づくりに努めた。

在宅医療・介護連携支援センターの主催する定例会議や研修に参加し、情報共有・意見交換を行った。

年3回わかたけ便りを発行し地域に配布。地域住民への啓発と地域関係者のつながりの強化に努めた。

3. 人材育成

センター職員間で相互に情報を共有し、専門的見解等の視点から意見交換を行った。
スーパービジョンを適時実施し、ソーシャルワークスキルの向上を図った。
外部研修に参加し、研修で得た知識をセンター職員間で共有した。
個別ケースに関しては随時進捗状況を確認し、必要に応じて助言を行っている。
職員への「承認」を伝え、内発的モチベーションを高めた。

4. 労働環境の向上

ラインワークスでの情報共有、リモートでの研修・会議の参加等、ICTの活用により、業務の生産性の向上に努めた。
有給休暇を取得しやすい環境作りに努めた。
職員間の交流を深め、風通しの良いセンターにする為、月1回昼食時に事務所内にて「食事会」を開催。

今後の課題

- ・令和3年2月～3月に開催予定であった地域ケア会議が新型コロナウイルス感染予防のため開催できず、地域の課題を抽出するまでに至らなかった。令和4年度の地域ケア会議ではテーマの抽出が課題。
- ・令和4年9月より自立支援型地域ケア会議を開催予定。詳細については地域包括全体で検討していく。
- ・災害や感染症発生時に要援護者、関係機関に対して、必要な情報発信や支援が行える体制が構築できるよう検討していく。